

全船協

第133号 2017年1月 新春号



鳥羽商船高等専門学校練習船「鳥羽丸」

鳥羽商船高等専門学校提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <http://www.zensenkyo.com>

<p>大阪湾水先区水先人会</p> <p>会長 堀 眞 琴</p> <p>〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5 電話 (078) 321-7221 FAX (078) 321-5307</p>	 <p>北 星 海 運 株 式 会 社</p> <p>代表取締役社長 佐藤有造</p> <p>〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号 セントラルビル6階</p> <p>電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575</p>
<p>株式会社 コトラシステム</p> <p>代表取締役 土屋 正徳</p> <p>〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13 日本橋鮎佐ビル3階</p> <p>電話 (03) 3245-6975 FAX (03) 3245-6980 E-mail: cotrasystem@nifty.com</p>	<p>山友汽船株式会社</p> <p>代表取締役社長 望月正信</p> <p>〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号 TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520 Email: sanyuksn@violin.ocn.ne.jp</p> <p>B&S ENTERPRISE 株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972 Email: info@bands-k.com</p>
<p>一般社団法人 日本船長協会</p> <p>会長 小島 茂</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3265-6641 FAX (03) 3265-8710 http://www.captain.or.jp</p>	<p>一般社団法人 海洋会</p> <p>会長 山本 勝</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 (海事センタービル6階)</p> <p>電話 (03) 3262-8632 FAX (03) 3262-6909</p>
 <p>一般社団法人 日本船舶機関士協会</p> <p>会長 井手 祐之</p> <p>〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地 (海事センタービル5階)</p> <p>電話 (03) 3264-2518 E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp URL http://www.marine-engineer.or.jp</p>	<p>人と海に未来を</p> <p>公益社団法人 日本海難防止協会</p> <p>会長 工藤 泰三</p> <p>〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号 磯村ビル6階</p> <p>電話 (03) 3502-2231 http://www.nikkaibo.or.jp E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp</p>
<p>・海技教育支援事業 ・奨学金貸与事業 ・帆船海王丸体験航海事業 等</p> <p>公益財団法人 海技教育財団</p> <p>会長 武藤 光一</p> <p>〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4 電話 (03) 3288-0991 URL http://www.mact.jp</p>	<p>海上の友</p> <p>船員と船員家庭のタブロイド版新聞 月3回1.11.21日発行 年間購読料 本体価格(8,460円) + 税 送料別</p> <p>海と船の雑誌 ラメール</p> <p>本体価格(667円) + 税 送料別</p> <p>お申し込み お問い合わせ (公財)日本海事広報協会</p> <p>〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6 電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580</p>



目次

表紙・・・鳥羽商船高等専門学校練習船「鳥羽丸」

巻頭言・・・新春の挨拶..... 会長・・・岩田 仁・・・ 2

平成28年度第2回通常総会開催報告..... 事務局・・・ 3

幸村の子どもを養育した片倉家の人々..... 函館水産高校教諭・・・我妻 雅夫・・・ 5

海国時報復刻版・・・南氷洋の鯨の話（下巻）..... 元会員・・・小間 芳男・・・ 13

ブータン王国紀行..... 名誉顧問・・・田中 善治・・・ 21

高専ロボコン全国大会応援の記..... 鳥羽商船OB（S40卒）・・・岩田 仁・・・ 25

7月15日は内航船の日・記念日 監事・・・本望 隆司・・・ 26

第18回イレブンマリナーズゴルフコンペ報告..... 幹事・・・岩田 仁・・・ 29

海運・造船業界の求人動向（2016年11月現在）..... キャプラン（株）・・・ 30

海事ニュース 31

北から南から

富山高等専門学校..... 33

鳥羽商船高等専門学校..... 36

広島商船高等専門学校..... 41

大島商船高等専門学校..... 48

弓削商船高等専門学校..... 52

海技教育機構..... 54

本部・支部だより..... 事務局・・・ 56

会費納入者御芳名..... 事務局・・・ 58

時事寸評..... 事務局・・・ 60

表紙写真解説 事務局・・・ 60

編集後記 事務局・・・ 60



新春の挨拶

会長 岩田 仁

新たな年を迎えるに当たり各職場で健闘されている会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げますとともに過ぎた年を振り返り、今年1年の取り組みについて皆様と共に考えたい。

予想外の英国のEU離脱、アメリカ大統領選挙は過激な言動のトランプ氏の勝利、アジアでは中国の海洋法無視の強引な海洋進出、韓国の韓進海運の破綻など、世界は政治も経済も夢のない混迷へと向かっている。

国内では昨年夏、一週刊誌の記事が引き金となり紆余屈曲のすえ、緑の鉢巻が似合う女性都知事が誕生した。その新都知事が政治を目指す若者のために「政治塾」を立ち上げ、東京のような大都市には物が溢れ何でもあるが「希望」だけがないということでその塾を「希望の塾」と名付け話題となった。

国会内は平行線の論戦ばかりが繰り返され与野党間で一致点を探す議論が無く、閉塞感の漂う現状に新風を吹き込むような澁漑とした議員がここから育つことを期待したい。

先日手にした本の中に万物の根源は水であると説いた紀元前のギリシャの哲学者ターレスの面白い逸話が載っていた。彼は人間にとって大切なものを「九つの対話」として残している。その対話の内容は「全世界で最古のもの・・・神」、から始まって「全世界で最も難しいこと・・・自分自身を知る、」で終わるのだがその中に「全世界で常にもつべきもの・・・希望」という項目がある。九つのなかには現代人には納得できないものもあるのがこの「希望」にはなるほどと素直に腑に落ちた。

全船協は極端に減少した日本人船員の復活を目標に汗を流している。これからもこの目標は継続していく所存で特に外航船員について

は2千人レベルまで落ち込んだ仲間を少なくとも3千人レベルまで増やしたいとの「夢」を抱いている。

昨年はプロジェクト 200 の呼称で高専商船学科の養成定員 200 名確保の運動も行い成果を得たが、仲間を増やすために全船協が継続的に取り組んでいることは、1. 子供たちの目を海洋に向け海の学校の存在を知ってもらうこと、2. 商船教育の質的向上の支援、3. 就職支援と職場になじめない若者へのアドバイスと激励である。

前記の3点を重点的項目としているがまだまだ改善・工夫の余地はある。会員相互で知恵を絞り工夫を重ね成果に繋げたい。

官民連携での若者を集めてのイベント、就職説明会などは日本各地で盛んに行われ若者の海上就職率向上につながっているようだ。しかし、彼らの船員としての定着率はどうなのであろうか。全船協には就職して1年もせずに辞表を出した若者の相談もある。数か月で職場を去る若者に対し船の現場はどう対応しているのだろうか。

今の若者は根性が無い、あきらめが早いで済ませる問題ではないと思う。忙しい、時間がないで放置しておく問題ではない。船内で新人船員が抱えている不安・疑問に耳を傾け、それを解決し若者を職場へ定着させる工夫がなされているのだろうか。

現場の船員自身が若者を仲間として迎え入れる気配りが無い限りいくら国や会社が人集めの策を労しても日本船員の増加は画餅となろう。どうか最前線で活躍の会員の皆さん、若い仲間と船員の「夢」を語り「希望」を持たせる活動に時間を割いてください。

平成28年度第2回通常理事会報告

事務局

平成28年度の第2回通常理事会は10月25日本部会議室で開催されました。以下に議事要約を掲載し報告といたします。資料及び詳細はホームページをご参照ください。

平成28年度第2回通常理事会議事録（要約）

一般社団法人全日本船舶職員協会

1. 日 時 : 平成28年10月25日（火）18時～20時
2. 開 会 : 会長挨拶
3. 議長選出 : (定款第39条により会長がこれに当たる)
4. 書記任命 : 田島事務局長
5. 理事の定足数確認 (定款第40条に定める定足数は理事の過半数)
理事総数 12名、監事総数 2名
出席理事 9名 赤嶺正治、岩田 仁、及川武司、小木曾順務、柏木 実、田島
孝一、松見 準、望月正信、矢野芳秀
欠席理事 3名 濱崎 龍也、山田 貢、吉本公則
出席監事 1名 渡部英利
欠席監事 1名 本望隆司
理事総数 12名、出席理事 9名、出席監事 1名
事務局より定足数について理事総数12名中、出席者9名で、理事過半数の出席があり、本理事会は成立しているとの報告があった。
6. 議事録署名人 定款第44条により、会長及び監事とした。
7. 審議事項
 - 1) 1号議案 平成28年度中間決算について 資料1
事務局より添付決算資料①～⑤に基づき説明、及び内容の確認等が行われ、原案のまま承認された。
 - 2) 2号議案 役員等に関する内規について 資料2
定款変更をしないことを前提に、提案内容（文案・表現も含め）を弁護士とも相談し、次回の役員選考委員会開催までには結論を得ることで承認された。
8. 報告事項
 - 1) 資産取崩しに関する状況について
状況については都度メールにて役員に報告し、株売却については本年度の総会決議に従い会長一任としていることを確認した。

2) 会費について

当面現在の月額800円を維持したいとの事務局報告に対し、特に異議は出なかった。

3) 執行役員の取り組みについて

添付資料28年度事業報告(中間)により説明がなされ、特に意見は出なかった。

9. その他

①内航乗船研修制度の廃止について

継続事業の一つであり、11月18日開催の商船学科振興協議会にて学校側の意見も確認の上、慎重に対応していきたい。

②平成28年度商船高専卒業生進路状況について

添付状況表により、学校別の特徴が出ているが、海上職への就職が27年度よりも若干ではあるが、全体的に増えており増加傾向にある。

③商船学科振興協議会の開催について

11/18(金) 14:00~16:00

出席可能な役員は出席願うこととした。

④各校同窓会長との懇談会の開催について

12/3(土) 13:00~15:00

⑤海事人材育成プロジェクトのサブプロジェクト(及川専務が委員)の一環として全日本船舶職員協会が富山高専射水キャンパスで1年生及び3年生(保護者を含む)を対照として、“船舶職員とは”と題した説明会を株式会社キャプラン佐々木氏の協力を得て実施する。

評価が高ければ他校でも実施予定

⑥会員増加対策

- ・5校の4年生が乗船実習している日本丸、銀河丸を訪船予定し、準会員への入会を勧誘する。
- ・商船高専の卒業生を積極的に採用している企業を訪問し、賛助会員への加入を勧める。

以上の議論を明確にするため、次に記名捺印する。

平成28年10月25日

議事録署名人 会長 岩田 仁

監事 渡部英利

幸村の子どもを養育した片倉家の人々

函館水産高校教諭 我妻雅夫

1 はじめに

この度も投稿のチャンスをいただきありがとうございます。「全船協」(132号:8月号)で、真田幸村の子ども達が片倉小十郎重長の庇護の下、白石城下(現宮城県白石市)で養育されたことを書きました。

船を職場とする皆様の機関紙「全船協」の貴重なページを割いて大変申し訳ありませんが、今回は「真田幸村の子孫を養育した片倉家の人々」について書かせて下さい。

2 幕府は松前藩をなぜ(福島県)梁川に国替えしたのか

「全船協」(132月号)にも書いたが、北海道の松前藩と宮城県仙台伊達藩の白石城主片倉氏は姻戚関係にある。そのような関係にある白石に近い福島県伊達市梁川へ、幕府は1807年、なぜ松前藩を国替えしたのだろう。親戚筋が近くにあれば松前藩も心強くだろうという幕府の配慮という考えもあるが、これは妥当でない。なぜなら、当時、若冲他に学び、アイヌの酋長を描いた「夷酋列像」の作者として有名な大和絵画家であり、松前藩家老であった「蠣崎波響」が箱館に渡った際、幕府管轄の箱館奉行所の執拗な監視を受けたからである。

波響は監視されながら何をしていったのか。函館の名刹である高龍寺から「釈迦涅槃図」の制作を依頼されて、その制作に取りかかっていたのだ。この時に描かれた涅槃図は寺宝として、現在も高龍寺で大切に保管され、4月の花祭り頃、市民に公開されることがある。



(引用) 図1 梁川と白石の位置関係
(インターネットから引用)



図2 釈迦涅槃図(波響)
(※インターネットから引用)



図3 棚引く雲が江差・上の国方面の海岸線に見える
(※図2の拡大)

4 波響と松窓乙二の交流

松窓乙二（しょうそうおつに）は、第10代 片倉小十郎景貞（俳号 鬼孫）の俳句の師匠であり、よき知恵袋だった。乙二は、奥州の修験を束ねる地位にあり、住まいは白石城の鬼門である北東に位置し、「千手院」住職。ご子孫は、現在も同地に住まいしている。

乙二は蕉風俳句を受け継ぐ「奥州四雄」のひとりであり、「不忘（わすれず）の翁」と慕われた。箱館・松前方面に二度旅して、俳句結社「斧柄社」を作っている。箱館・松前の豪商や粹人が乙二の弟子になっている。北海道俳句史をひもとく時、第一番を飾るのは松窓乙二である。

この乙二が松前藩家老「蠣崎波響」とコラボした掛軸や屏風が（函館）市立函館博物館・函館市中央図書館に収蔵してある。波響が絵を描き、その絵に乙二が句を書いている。松前藩家老である波響とコラボできる乙二は、やはりただ者ではない。バックに片倉小十郎が控えていたこともあるが、乙二の俳人としてのレベルの高さが波響の絵に彩りを添え、波響の絵を一層格調高くしている。

乙二の箱館方面への旅は弟子の指導といえればそれまでだが、乙二も波響同様、箱館奉行所の厳しい監視にさらされた。このことから考えると、やはり、乙二も松前藩の松前復帰活動を行っていたと思う。一説では、監視の目が厳しく、箱館での活動をやりにくい波響が、復帰のための資金調達として、完成させた作品を乙二に預け、箱館方面で売りさばくことを乙二に依頼したようである。

乙二の本名は「岩間清雄」または「亙理清雄」であるが、俳号である「松窓」の由来は何か。住まいである千手院の「庭に面した窓から松を眺めるのが好きだった」から名乗ったということが通説である（図4）。

私の勝手な妄想によると、対ロシア外交で風雲急を告げる「松前方面の情報を仕入れる窓たらん」ことを乙二が意識してつけた号ではないかと想像をたくましくしている。

乙二がただ者でないことは、墓がある場所でも感じられる。関ヶ原の合戦と時を同じくして起きた、伊達政宗軍による上杉軍の出城である白石城攻め。通称：北の関ヶ原。この戦いで政宗公が本陣を置いた所は白石川の北岸の丘陵で、現在は「陣場山」（図5）と呼ばれている。乙二の墓（図6）はこの陣場山にあるのだ。墓の横には乙二の句碑（図7）があり、すぐそばには官軍参謀「世良修蔵」の墓もある。



図4 千手院裏にある市神と松



図5 乙二の墓がある陣場山（白石市）



図6 乙二の墓



図7 乙二句碑

5 乙二の弟子「伊達林右衛門」

函館水産高校がある北海道北斗市には、乙二の弟子であった伊達林右衛門に関係した史跡がある。

その1 初代「伊達林右衛門」

松前の豪商である初代「林右衛門」は1805年に現在の北斗市千代田という所に水田を開いた。刈り取った米を江戸城（愛称：千代田城）に献納したことから、この水田地を「千代田」と命名し、今に至るといわれている。

ここでまた妄想する。初代「林右衛門」の生まれは、白石と梁川の間位置する（福島県）貝田という所である。梁川は伊達家発祥の地であり、梁川は、現在、福島県伊達市梁川である。伊達の色濃い貝田で生まれた初代林右衛門は「千代田」という地名に、「千代（＝仙台）の田」という思いを込めているのではないかと私は思っている。

尚、梁川市街を流れる川の名は、現在も「広瀬川」（図8）という。仙台市内を流れる広瀬川は、この梁川の広瀬川に由来しており、政宗公が仙台に城を築いた時に命名したことに始まる。



図8 梁川を流れる広瀬川

その2 2代目「伊達林右衛門」

北斗市文月にある文月稲荷神社に奉納された俳句額「正一位稲荷宮奉額」（北斗市指定有形文化財）に2代目「林右衛門」が関係している。この額には、松前と箱館の俳人58名が137首の俳句を寄せているが、この58名は、箱館と松前にあった乙二の俳

句結社「斧柄社」所属の俳人達だといわれている。

この俳句額に詠まれた句の選者は「梅窓布席」とみられている。「梅窓布席」とはどのような人物か。

生まれは初代「林右衛門」と同じ（福島県）貝田で、本名は「吉田清兵衛」。貝田にいた時は、白石へ乙二を訪ねて俳句の指導を受けたという。吉田清兵衛は親戚筋であった初代「林右衛門」に見込まれて、松前伊達屋の2代目となる。初代「林右衛門」は、親戚筋の吉田清兵衛を養子にして鍛え上げたのだ。

さて、この俳句額は1827年に、松前藩10代藩主の松前章広公によって勸請され、1821年に松前藩が松前に復帰してきたことへのお礼と関係しているといわれている。

家老であった蠣崎波（図9）も、藩が松前に復帰した翌年、1822年に梁川天神社



図9 蠣崎波響

石灯籠を寄進している（図11）。



図10 梁川天神社（右奥の石灯籠に注目）



図11 波響寄進の灯籠

ところで、「梅窓布席」の「梅窓」に何か感じませんか。……。

師匠が「松窓」で、弟子が「梅窓」。評価する時「松竹梅」を用いることがある。松が最上等で、竹は次点。梅は竹の次の三席。師匠が「甲乙の乙」「一、二の二」のいずれも二席の文字を組み合わせた「乙二」を採用したことから、弟子の吉田清兵衛は「松竹梅の梅」を採って「梅窓」としたと考えられる。師匠も弟子も謙虚さが俳号に表れているといえる。

6 「松前漬け」のルーツ考

松前漬けのルーツには次の2説がある。

説1 南東北の郷土料理「いか人参」が松前でアレンジされて「松前漬け」になったという説「いか人参」とは、福島県北部（県北）から宮城県南部（仙南）にかけてみられる、いかと人参を千切りにして醤油漬けにした食べ物である。素朴で独特の味を持つので、一度食べたら止まらなくなる。

松前藩は福島県の県北にある梁川に国替えされた時に「いか人参」に出会い、松前復帰後、松前藩士は「いか人参」の味を忘れられず、豊富に手に入る昆布を「いか人参」に入れてできたものが「松前漬け」だということだ。

説2 松前藩の「松前漬け」から「いか人参」が誕生したという説

主に松前の人たちが信じている説で、松前藩が梁川に国替えされた時に「松前漬け」を福島県に持ち込み、昆布がそう簡単に手に入らない梁川を中心とした南東北では、「昆布なしの松前漬け」が「いか人参」になったという説。

私は、「松前漬け」のルーツはどちらでもよいと思っている。松前藩が梁川にあたり、松前にあたりした歴史が食文化にも影響したという、そういう歴史がわかれば

よいと思う。

宮城県白石市には現存する武家屋敷「小関家住宅」（図12）がある。この小関家は松前藩のお姫様が片倉家に嫁いだ時、身の回りの世話をするために白石にやって来た家柄である。一方で、大坂夏の陣において後藤又兵衛（←NHK大河ドラマ「真田丸」では哀川翔さんが演じている役）を撃ち取った2代目「片倉小十郎重長」のご令嬢は、松前安広公に嫁いでいる。お互いに新天地において郷里の食を懐かしみ、それがその地で根付いたとも考えられる。



図12 白石市の武家屋敷「小関家住宅」

三年前、本校水産食品科の3年生と一緒に、松前町にある老舗店「蝦夷松前 龍野屋」さん（図13）のご指導を受け、「松前漬け」「いか人参」、そして新規考案した松前漬けにニシンの魚肉をまぶした「親子松前」（図14）を試作して、これら3品をパックにした「絆漬け」という商品開発に取り組んだことがある。残念ながら「絆漬け」は世に出ることはなかったが、「絆漬け」には3品を味比べする喜びだけでなく、南東北と北海道（松前家）の歴史的絆を知って、その地の食を堪能してもらいたいがあった。



図13 「龍野屋」さん(中央)と生徒



図14 試作した親子松前

7 空を飛んだ侍「ながや うどの」

白石藩士の中には空を飛ぶことに憧れ、研究して、翼を作り、実際に飛んだ上級藩士がいた。名前は「長谷卯殿」。「永谷宇殿」あるいは「長矢鵜殿」とも表記されることがある（図 15）。鵜殿は知行 5 貫文をたまる上級藩士であり、同心・足軽・鉄砲組の元締め武頭であった。屋敷も白石城のお側にあった（図 16・17）。図 17 の屋敷跡の前を通る道路は旧国道 4 号線で、元々は奥州街道だった。この道路を横断すると路地がある。この路地は今でも「ねずみ横丁」と呼ばれ、当時は黒装束に身をかためた隠密？部隊の住まいだったらしい。このような鵜殿の立場から考えると、鵜殿は単に酔狂で空を飛ばたいと考えたのではなく、空から敵陣を見ることができたという思いで空を飛ぶという研究をしたのかもしれない。



図 15 白石藩士名鑑から



図 16 白石城下絵図



図 17 空き地が鵜殿屋敷跡（右奥白石城）

研究は精緻を極め、野鳥を採集しては寸法・重量を測ったと伝わっている。鵜殿が野鳥を採集した川「芥川」に架かる橋は現在でも「雁狩橋」（図 18）と呼ばれている。



図 18 芥川に架かる雁狩橋

鵜殿はどのような飛行器具で空を飛んだのだろうか。宮城県白石市在住の郷土史研究家「八島忠賢」氏の著書「鳥になりたかった男……長矢宇殿伝記」の表紙に、同市在住の日下徳衛氏筆による想像図が掲載されている（図 19）。



図 19 鵜殿の飛行器具



図 20 鵜殿の馬標「赤鳥」

鵜殿は、とにかく「鳥」に縁がある。「鵜殿」の「鵜」がしかり。図 20 の馬標しかり。鵜殿の馬標は馬櫛を図にしたもの。馬櫛とは馬の「垢取り（あかとり）」に用いられ、馬標は「赤鳥（あかとり）」と呼ばれるようになる。この「赤鳥」を最初に用いたのは、今川義元といわれている。

8 戊辰戦争と白石藩士

官軍による会津攻撃は京都での恨みを晴らすように執拗に行われた。真田幸村の子孫である伊達藩の真田喜平次だけは本気で会津攻撃をした。このことは前回書いた。喜平次以外の伊達藩は形ばかりの茶番攻撃を続けて、官軍参謀「世良修蔵」を激怒させ、世良は同僚の大山格之助に「奥羽皆敵」の4文字をしたためた手紙を出した。この手紙が伊達藩の手に渡り、世良は福島市内で捕縛され、阿武隈川畔で斬首の刑に処せられた。世良の首は白石城下の月心院（真田幸村の娘「阿梅」が父である幸村の菩提を弔うために建てた寺）に埋葬された。

官軍参謀を手にかけて奥羽越・松前の諸藩は、重役を白石城に派遣して、ここで伊達の殿様を盟主にした「奥羽越列藩同盟」が結ばれた。同盟軍は官軍に対して戦を挑むことになる。

同盟軍は、ほとんどの戦線で官軍に歯が立たなかったが、伊達藩の細谷十太夫率い

る「鴉組」は官軍を悩ました。長谷卯殿率いる白石の「ねずみ横丁部隊」（←筆者が勝手につけた名前）も鴉組と一緒に活躍していると話しは面白くなるのだが、真実は不明。

真田幸村の娘「阿梅」が大坂夏の陣で片倉小十郎重長の陣に送られてきたとき、侍女としてお供してきた女性は、真田十勇士のひとり「穴山小助」の娘さんだった。穴山小助の家臣が白石に居を構え、幕末期まで真田の牒略や情報収集力・分析力・判断力が白石藩に根付いていたなら、きっと鴉組と一緒に官軍にひと泡もふた泡も吹かしていたと思う。

9 北海道に渡った白石藩士

戊辰戦争に負けた白石のお侍さんは、明治4年、松島の寒風沢から「咸臨丸」「庚午丸」で北海道開拓に船出する。咸臨丸は、途中、北海道木古内町サラキ岬で座礁破船し、401名の白石藩士とその家族は海に投げ出されるが、全員無事救助され、函館から庚午丸で石狩に着いて、その後、刀を鋤鍬に替えて、白石村（現札幌市白石区）を開き、白石神社（図 21）を中心にして村の絆を保った。その時の様子を描いた絵が旧北海道庁（赤レンガ庁舎）に展示されている。（図 22）。



図 21 札幌白石神社（札幌市白石区）

永谷宇殿の子孫も札幌白石村に移住した。開拓当時の白石村棟割り図に「長矢栄之・栄太郎」という文字が残っている（図 23）。

宇殿の子孫は、その後、北方四島で村長をやったらしい（八島忠賢氏談）。



図 22 白石藩士の図

れる（図 24・25）。札幌に開拓で入った白石藩士「半澤時中」の子で、賊軍扱いされていた白石藩士の時中が開拓使出仕となり、洵は開拓使職員の子弟が入学できる札幌県創成小学校に入学する。

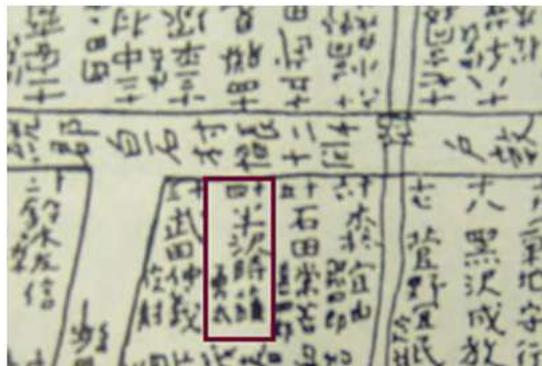


図 24 札幌白石村棟割り図（枠内が半澤家）

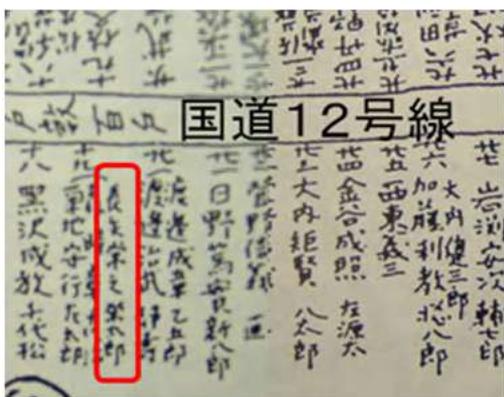


図 23 札幌白石村棟割り図（枠内が長矢家）

鴉組の細谷十太夫は開拓使（現北海道庁）に出仕し、後、宮城県に戻り、真田喜平次らと晩年まで親交を結んだという。尚、十太夫は、開拓使に出仕する途中、己巳海戦で負けて青森に収監されていた小杉雅之進（咸臨丸で太平洋を渡った時の士官）を訪ね、小杉の子どもを養子にもらい受ける約束をした。

10 納豆博士「半澤 洵」先生

明治 12 年、後に「納豆博士」と呼ばれるようになる半澤洵先生が札幌白石村に生ま



図 26 半澤 洵 先生の生家跡（白石区）

後、札幌農学校に学び、東北帝国大学農科大学（現北海道大学）応用菌学教室初代教授になる。ドイツのコッホ研究所や北里柴三郎の下で勉強し、ヨーロッパ留学中、日本人の体格が小さいことは、良質タンパク質の摂取量のちがいだと考え、帰国後、日本人が毎日摂るタンパク源「納豆」の研究をする。それまで、納豆は蒸した大豆を藁に包んで作るのが当たり前だったが、半澤先生は、藁納豆から「納豆菌」だけを純粋培養・分離に成功して、藁を使わなくても納豆ができる「近代納豆」を確立した。「日本のチーズ、納豆」の言葉を遺し、現在でも北海道大学農学部に先生の胸像が大事に展示されてある（図 26）。



図 26 半澤先生の胸像

半澤先生のご先祖は、片倉家にあって、「鉄砲組々頭」の家柄である。片倉家の騎馬鉄砲隊が大坂夏の陣で後藤又兵衛を撃ち取ったことは先に書いたとおりである。その騎馬鉄砲隊も真田幸村には潰走させられたが、1862年、徳川14代将軍「家茂」が天皇から石清水八幡宮行幸の先導を仰せつかった時、片倉家の鉄砲隊は活け火縄状態で行幸を先導した。この行幸の列に半澤先生のご先祖もいた可能性が高い。

11 「真田丸」が結ぶ宮城県白石市と北海道北斗市のコラボ

平成28年10月29・30日の2日間、北斗市民文化祭が行われた。この文化祭に本校「北のくにづくり2016」チームも参加して、本誌に書いたような内容のパネル展示を行った(図27・28)。



図 27 パネル設営作業する生徒

白石市はNHK大河ドラマ「真田丸」で盛り上がり、逆に北斗市は北海道新幹線開業の騒がしさが一段落したところでの文化

祭となった。白石からは佐藤清治製麺社長から名物の白石温麺(うーめん)や真田関連の商品・グッズを提供してもらい、大勢の北斗市民にご鑑賞いただいた(図29)。



図 28 完成した展示パネル



図 29 白石から提供された資料コーナー

展示を通して、北斗市が真田を養育した片倉家と関係があり、松前藩と片倉家の関係も知っていただけたと思う。

12 最後に

今回も極めてローカルな内容になり申し訳ないと思っています。NHK大河ドラマ「真田丸」もいよいよ大詰めで、先週、真田丸の攻防が終わり、いよいよ道明寺の戦いです。果たして、片倉騎馬鉄砲隊が後藤又兵衛を撃ち取るシーンや、幸村の娘「阿梅」が片倉小十郎重長の元へ送り届けられるシーンはあるのでしょうか。本誌が刊行されているときには答えが出ていますが、今回の文章を読んでいただき、お仕事の合間に少しでも真田丸の歴史の奥深さを感じていただければ幸いです。(了)

南氷洋の鯨の話(下巻)

著者 おまよしお
小間芳男

執筆：昭和23年(1948年)12月11日

掲載：『海国時報』第209号(昭和31年7月号)

海のギャング、マッコウ鯨

前の中巻では鯨の母性愛から、出産まで踏み入ったが、これから抹香鯨について話そう。

前に話した白長須鯨は一牡一牝だが、歯のあるマッコウ鯨はなかなか乱暴もので、彼らは「海のギャング」といわれる鯨で、獐猛性の持ち主だ。

彼が手負いになり、死にもの狂いをやる時はどうかすると、捕鯨船の舵を曲げたり、プロペラを折ったりすることがある。近海で古い捕鯨船で彼のために行方不明になった例もある。

第一、彼らは食物からして違う。彼らは深海にいる2メートルから3メートル大の大鳥賊(おおいか)を常食とするシタタカものである。

写真右下の壮観な一幕は、マッコウ鯨が巨大な大鳥賊(おおいか)を呑み込む前の両者の闘争だ。

この壮烈な光景は、人間のやる拳闘妙技も遠く及ぶところではない。さすがは3メートルもある怪物のような大鳥賊、そう易々とマッコウに呑まれてはいない。その10本の足に全身の力をこめてタコのような吸盤を、タンクのようなマッコウの大頭からみつけ、強烈な吸引力でたち向う。マッコウはその痛みに堪えかねて大頭を武者振りまわし、大口を開いて一息に呑み込まんとするが、がっちり吸いついた大鳥賊はなかなか離れない。されど相手は頑丈な歯の持ち主で、15、16メートルもある猛者、勇敢な大鳥賊の奮闘もついに力つき、マッコウの胃の腑に収まる。



マッコウクジラが大イカを飲み込む前の格闘

マッコウ鯨の糞詰まり

この乱暴者のマッコウも因果の理法というか、烏賊(イカ)を喰った報いで一命を失う時がくる。それはこういう訳だ。

烏賊には俗にいうカラストンビと称する林檎大のセルロイド質のものがあって、これが消化しない。そこで執念深いカラストンビ、死んでも死にきれない。恨み骨髄に徹するマッコウ鯨の腸内に孤塁を死守して腸を荒し回る。ここでまた無意識の争闘がくり返される。

マッコウ君、痛いものだから腸液を盛んに分泌して、このカラストンビを包囲するが、彼の弱り

目にこれが腸に詰まり、所詮糞詰まりに。百頭中数頭は報いがたたって冥途行きとなる。

しかし、弱り目のこない頑強なマッコウはこれを見事に腸外に排泄して一命は取り留める。時たま、排泄したものが海面にポカリ、ポカリと浮いている。これを漁夫がよく発見する。

そうして思いもかけない貴重品が手に入ったとばかり、漁夫は我を忘れて喜ぶのだ。この腸内の排泄物が、香料としての“竜涎香(りゅうぜんこう)”となるのである。

淑女が珍重の“竜よだれ”の香り

この竜涎香、名前こそ優美で、貴婦人たちの高級香料として、フランスのコチー社あたりで盛んに精製して、世界中の淑女から珍重がられているのだから、マッコウ君も満足していることだろう。

この竜涎香、いかにも情緒豊かな呼称だが、出所といえば遺憾ながら余り芳しいとは言えない。つまり竜涎香とはマッコウ鯨の糞石であることを、大多数の人々は知っているようで、案外知っている人は少ないであろう。

竜涎香について、日本の古い文献『諸国探楽使記』には、こんなことが載っている。

昔、大食国に竜涎島というところがあった。島国とは妙な名前だが、昔は何処かにこんな名前の国があったものとみえる。それはともかく、花咲き鳥歌う春の季節になると、竜も浮かれて盛んに遊び回るが、その時涎をポトポト海上に落とす。

その後で土人が船に乗って行って採って来る。と、こんな所から「竜涎香」の名が出たというのだが、いくらなんでもこれでは当の著者さえ、本当だと思えなかったのだろう。その後には次のような但し書きを付している。

「この説もおそらく虚談ならん。これ今、私邦にて採れるところの鯨の脳味噌と海俗のいうもの、是なるべし」と。



上野の国立科学博物館所蔵のリュウゼンコウ

オスは亭主関白の格で君臨

一牡一牝の白長須鯨とは反対に、抹香鯨は一牡多牝（いわゆる人間社会の一夫多妻）で、オスはメスより数メートル大きく常にオスがリードしている。オスは王者のそのの如く専横の態度で多数

のメスに君臨している。いわゆる、亭主関白という格だ。



マッコウクジラ 北極から南極までの深海沖に分布。体長はオス 14m、メス 12m。体重はオス 60t、メス 20t。すべての動物の中でも頭部の大きさは最大、最重量の脳で 7kg もある

縄張り争いで大死闘

この海の暴君マッコウ鯨の牡の中で、はなはだ物の憐れを留めるものがある。これをわれわれは「離れマッコウと呼んでいる」。一頭の精悍（せいかん）なオスが十数頭から数十頭のメスを引き連れ大群をなし、堂々洋上を所狭しと華やかな行進をやっている。ところが、一つの大群と他の大群とが遭遇したら大変なことになる。すなわち双方の群れから王者気取りの大オスが躍り出て死闘を演ずる。これがなかなか壮観だ。先の大イカとの対戦以上に、大親分の縄張り争いを思わせる。

この決闘では結局、一方が負けると、それに付いていた数十頭のメスは、ことごとく勝った方のマッコウ群に寝返ってしまう。

こうして負けたオス鯨は、ひとりボッチになって今日は我、明日は汝、と口ごもりながら淋しく泳いでいる。離れマッコウとは、この類だ。

そして、ほかにもメスから嫌われたオスがいるから、大きな弱いオスばかりが7、8頭で群れをなし、メスを交えず敗軍の将、兵を語らずの態度でコソコソと仲よく泳いでいる。

オスが統率するハレム

これはまさに、優勝劣敗の生き標本だ。すなわち、一頭の強大なオスが多数のメス及びその子から成る大群を統率しているところは、オットセイの場合と同様である。この群れをオットセイにならってハレム（HAREM）と呼んでいる。

ハレムが数個集まれば数百頭にも達する巨大群となる。ハレムはつねに温帯の海域にのみ留り、決して高緯度、北洋、南氷洋の冷水域には行かない。日本近海では、黒潮及びその流域範囲でのみ

回遊している。従って母鯨から離れて独立生活ができる幼年のオス、性的に成熟はしているが、未だにハレムを統率するに至らない若年のオス、または老いたためハレムを新進のオスに追われた老オスは、あまり大群をなすことなく、餌を求めて遠く北洋、南氷洋の冷水海域に遠征する。この原則は厳密に保持されている。

なぜメスが冷水域で回遊しないかという、オスは冷水海域で盛んに回遊して餌探して優勢の体

軀を養い、メスは主として生殖と育児にいそしむからである。あたかも人間の男が外に活動し、女が内を整え、育児にいそしむ。

これは、日本の家族主義に類似している。

鯨の母性愛に砲手悩む

鶏屋の娘が鶏の鳴き声をしたり、肉屋の息子が牛のような真似をするということをよく聞く。

それは親がその職業上、たくさんの鶏や牛を殺すから、親の因縁、子に祟（たた）りなどと、言っただけを宿命論的に説明づけている。仏者の、いわゆる因果応報の理法からきたもののように思うが、この理法に似た話題が捕鯨船の砲手の身の上にも起ることがある。



モリを放つ砲手の的中率は、一隻の乗組員の利益分配を左右する。砲手の責任は重い

鯨の母性愛に直面して、砲手はわが身につまされて、胸をしめつけられる場合がある。

そんな時に、故郷から妻が病気とか、子供が死んだとかの電報がくると、砲手の仏性は頭をもたげ、情緒的になり、一種の神経衰弱をおこし、命中率が悪くなることもある。こうした時、砲手は悄然として多くを語らないが、心中穏やかならず、悶々とした日々を過す。そのため乗組員は捕獲が少なくなると、利益分配がこれに比例するから、操業中の8カ月間の分配は少なくなる。そうすると、ますます当らなくなるのである。

5、6日目ごとに、捕鯨船は燃料や食糧その他、

漁具などの補給で母船に横付けする。その際、砲手は母船で頑張っている船長兼事務部長に操業報告をしたり、今後の計画などの打合わせを行うのだ。

砲手の捕獲成績が挙がらないと、部長はご機嫌が悪い。そこで部長は砲手に向かって、

「君はこのごろ成績が悪いではないか」

と一発皮肉られる。そして「ウーン」と部長は沈黙考、しばらくして静かに砲手の顔を見ながら、

「数日前の電報では、君の長男は病気で亡くなったそうだが、それは誠にお気の毒だ。君は不在だし奥様はさぞかしご心痛、お察し申上げる。奥様が最善を尽くした結果なのだから、君はあまりクヨクヨしないで、それだけの寿命と諦め給え。心痛したところで死んだ息子は生き返るわけではないから……」

とお悔やみを言いながら、慰める。

この世界で多年の経験をもつ部長は、砲手の不成績が彼の長男の死からきていることをちゃんと感じている。そこで部長の理性的ご談義が始まる。そのご談義の内容はこうだ。

「われら捕鯨船隊員 1500 余名は、道楽で遠く南氷洋三界まで来ているのではない。一頭でも多く捕って大漁し、その油と肉を世界人類に貢献するという大きな使命を担っていることは、いまさら申すまでもない。鯨捕りは殺生な稼業には違いないが、われらは鯨が憎いから捕っているのではない。われらは天職の尊貴の目覚めに徹して、勇敢にやらなければならない。君のようにセンチになって迷信や因習にとらわれ天職に瑕瑾を入れることは考えねばならぬ」。これが部長の説教。

孝養には三種、捕鯨談義

私はかつて、京都の或る高貴な尼僧にお目にかかって、南氷洋捕鯨談をやったことがある。

その時、尼僧は聞き終って、「そんなにたくさん、鯨を殺しては可哀想ですね」と、ご職業柄、慈悲の片鱗を語られた。これには私も一応の納得はしたが、しかし可哀想だ、可哀想だ、と言って菩提心を起し、私が鯨稼業を辞めれば、今度は私が可哀想になりますと笑ったことがある。

この論法ですべての人間が鯨捕りを嫌って、この稼業をやめた場合はどういう結果になるかを考えて見給え。

人類の食生活の上に豊かな栄養を与えることができなくなるのではないか。こうなると、価値のバランス問題を論じなければならぬが、まあ、そんな難しいことは別として、これから私が君に話そうとすることが、今日の君の心境を転換するに役立つか、役立たないか分からないが……と前置きしてお談義を続ける。

古聖は「孝養に三種あり、衣食を施すを下品とし、父母の意に違わざるを中品とし、功績を回向するを上品とす。存生己に然り、いわんや亡親に於てをや」と言っている。

この意味は、人間孝養の最上は亡親、生前の事共を追憶して、感謝し回向することである。ここにわれらは天職遂行のために、多数の鯨を殺すが、その霊を回向することによって、罪滅ぼしという論理は成立すると思う。言い換えれば、鯨の霊を回向することによって、一切を解消すると考える。

そんなわけで、私は毎年南氷洋から日本に帰ったら、必ずお寺へ行って鯨の回向をしてもらうことにしている。最初坊さんは「なんと戒名をつけますか」と訊くから、笑いながら「“南氷洋鯨居士”としてください」と言った。

君も南氷洋で勇敢に最大の能率をあげ、日本に帰ったら先祖の回向と一緒に鯨の回向をやり給え、轄然とするよ。そうすれば、鯨は死してもその油と肉を人類に提供し、人類に喜ばれ、かつ感謝され（謝肉祭）、さらに回向してもらうのだから、これで満足すべきである。

総じて生物を相手にする人間は、先の鶏屋にしろ、肉屋にしろ、その主人公はみな、それぞれの対者の霊を回向することを忘れてはなりません、と部長のお談義は終わった。

鯨は怖くない。怖いのは冰山だ

南極くんだりまで、あの大きな鯨を捕りに行くんだから、さぞ恐ろしい危険なことがあるだろうと、誰からでも質問を受けるのだ。

ところが、鯨は獣には違いないが、猛獣ではないのだから、直接鯨から危害を受けるなどということはない。あの大きな凶休で本気になって人間に戦闘を挑んできたとしたら、300トン余の捕鯨船は、相当の被害を蒙るだろうことは想像に難くない。しかし前に述べた、マッコウ鯨は意識的ではないが、どうした拍子かに、プロペラーや舵をやられることがある。では何が一番危険であるかという、無生物の冰山である。



南極の冰山の一角

前述の暴風圏がそろそろ終わりかける南緯 50 度辺から、ボツボツ冰山が見え始めてくるのだが、その壮大な奇観は言語に絶するものがある。

氷山の大きいものになると、水面上の高さが100メートルもあり、周囲が2哩（カイリ。1海里は1.852 km）も3哩もあるのがある。しかも氷山は比重の関係で水面上の高さの8倍が海中に没しているのだから、その大きさは全く想像以上だ。100メートルの高度のある氷山なら800メートルくらいは海中に姿を潜めている。

今日のヤミ経済と同様、これにぶついたらどんな船でも木端微塵になる。かつて北大西洋上で豪華客船タイタニック号が氷山にぶっつけて多数の生命と共に海底のもくずとなったことは余りにも有名だ。

氷山が与える恩恵は…

そんな恐ろしい氷山ではあるけれど、この氷山があるお蔭で今日の南氷洋捕鯨が成立しているのだから、世の中のことは不息議である。

なぜかという、第一、鯨の集まることが前述した通り氷山のお蔭だ。第二は、あの辺の海は何千メートルという深さなので、錨（いかり）は絶対に下ろすことは出来ない。で、暴風の時などに

は、捕鯨船は大きな氷山の陰にかくれて暴風の脅威から避難するのだ。また、暴風の際、捕鯨船が母船から給油を受けたり、食糧の補給を受けたりするにも、氷山を屏風がわり（防波堤）に風波を避けて作業ができる。物が大きいだけに害も大きい代りに、益も多いというわけである。

鯨は前世紀には陸に棲む

鯨は前世紀には陸上に棲んでいたものであるが、あの巨大な体軀をまかなうには陸地は狭く、かつ地面がデコボコして餌探しに困り抜いたあげく、広大無辺の海に生活の根拠を定めたものである。

この思い切った180度の転換、その自覚と勇気には頭が下がる。その英断は彼らの得意な鯨飲、鯨食ができ、食の不安は絶対のない海洋無尽の食の持ち主となったわけである。

食に困ったら海を耕せ

人間も食に困ったら、鯨に学び、どしどし海洋に進出して、広大無辺にして立体的生産の海を耕すべきである。そこには肥料は要らない。水害も飢饉もない。生産の安全地帯だ。しかしながら“時化”があるが、その時は休んで風（なぎ）たら出かければよい。これほど安全な生産地帯はどこにもない。だから私は常に、「日本は屋敷は狭いが、

庭が広い。これを耕せばブルジョアの資格は充分にある」と叫び続けてきたものである。

一望万里、大自然の中に包まれて、あの巨大な鯨相手に相撲をとるのだから、何が壮快だといってこれほど壮快なスポーツはない。借金取りが来るわけはなし、浮世ばなれの極致にいて鯨だけを相手にくらす半年間は、私たちの命の洗濯である。

南氷洋に出漁の船隊数

南氷洋には、戦前どの位の捕鯨船隊が出かけて行ったかと言うと、35船隊、その内訳は英国10、諸威11、日本6、ドイツ7、パナマ1、といった割合だ。

それに従属する捕鯨船が約300隻など、それぞれ母国の旗を寒風にひらめかせて、氷山の間を縫いながら入り乱れて捕鯨、戦を行うのだ。私はこれを捕鯨オリンピックと称している。ちなみに、昨年の出漁師戦隊は、諸威10、英国3、日本2、ソ連1、オランダ1、南ア1、の割合で18船隊であった。各国ともお互いにしのぎを削りながら、その態度たるや実にフェアプレーである。

捕鯨船がしとめた鯨には、それぞれ船の旗印を

立てて海上に浮かべて置く。鯨が1頭だけの時にはすぐに母船まで曳いて行くが、2頭以上となれば1頭をそのまま浮かして置いて、次の奴を追っかけるので、旗印を立てて置きっ放しにして置くのだ。



操業中の1船隊。
中央が母船、周囲のが捕鯨船

南氷洋捕鯨の仁義と道

天候の悪い時などには、後から自分の捕った獲物の捜索に困る(吹雪や濃霧のため)ことがある。

そんな時、他の船がやって来て、こっそり失敬して行ってもちょっと分からないのだが、決してそんな不徳行為は行われぬ。

日本の船が捕った獲物を諸威の船が発見すると、わざわざ無電でその場所を教えてくれる。無論こっちでも教えてやる。実にフェアプレーだ。

あの清浄無垢な環境にいと、他人の物をチョ

ロマカスといったような、不純な気持ちは薬にたくも湧いてこない。陸地では、やれ自由主義だの、共産主義だの、労使紛争、政界紛々……などと世相は前代未聞の混乱を極め、いつ戦争が勃発するか分からない時でも、南氷洋に行っている捕鯨業者たちの気持ちは、じつに明朗だ。国境や人種を越えて、同じ捕鯨業者という気持ちの仁義が、知らず知らずのうちに固く守られているのだ。

南氷洋こそ、私の花道

毎年、南氷洋へ船出する時、見送りの人たちに向かって私はこう言った。

「太平洋は私にとって花道です(南洋だの豪州だの)。日本の楽屋で支度万端整え、いよいよ本舞台

の南氷洋に着いたら、各国の捕鯨船隊と覇を争う捕鯨の名優だ。」と船腹に油や肉を、いっぱい詰め込んで、意気揚々と国際漁場を引き揚げる時の感懐は何とも言えない。百日余、躍り抜き六法踏んで花道を引き揚げる勸進帳の弁慶である。

私の花道は歌舞伎座で、幸四郎丈の踏む花道とは訳が違う。7千余俵（かいり）の花道、見物人もこの私の感懐が日本の国民諸君に徹したら、日

本人は食うに困らないどころか、鯨のごとく鯨飲鯨食を壇にし、栄養100パーセントの体軀となり、明朗なる平和な人生を過すこと請け合いである。



最後の一頭を仕留め、さあ凱旋帰国だ！

口先だけの海国、終に敗戦…

低迷する妖雲の下、怒涛逆巻くのが海の相貌ではない。海は世界の公道であり、世界の宝庫である。それは海が親和の微笑をたたえて世界人類を抱擁し、底知れぬ神秘をもって若き人々に無限の夢と憧れを与えて、たくましく育てる力を持っているからである。

思うに前世期時代、鯨が陸から海へ180度の大転住を敢行したのも、単に海が食の豊富などという一事ばかりではない。

以上の理由からも彼等の大決断を早めたことを考える時、彼らの徹したる知性と勇氣には、全人類一人残らず頭を下げざるを得ない。

重ねて言う。大和魂だの、愛国心だの、と口ば

かり大層に言っても何が大和魂だか、如何にすれば愛国の実が挙がるかということを知らなければ駄目なように、海国だ、海国男子の叫びだけでは駄目だ。海事に関する知識も思想も一部少数の限られた人以外、大多数の人々は持ち合わせない。もちろん、一つのすぐれたる海洋文学すらない。

ここに、私は「日本敗れり、それは日本人が海と船を重要視せざりしなればなり」という敗戦記念碑を建てたい。敗れたりといえども今日このように食生活に苦しむのもそのためである。

さらに、進んで日本人が海の平和性に徹していたならば、今回の戦争も避け得られたであろうことを信ずるものである。（終）

記：昭和23年12月11日 元凶南丸船長・小間芳男

ブータン王国紀行

名誉会員 田中善治

初めに

今夏、8月31日より4日間、「幸せの国」ブータン王国を旅した。これは早稲田大学オープンカレッジや仏教伝道センター等で講義されている田中成明（じょうみょう）阿闍梨の呼びかけに受講生等が応じて実現したものである。去年はインドネシア、一昨年はラオス、カンボジアだった。

出発3日前ハプニングがあった。田中師が突然循環器系の病で入院ということになってしまった。が、今更中止というわけにもいかず、田中師不参加のまま総勢24名で挙行することになった。幸い参加者の中に天台宗の住職ご夫妻がおられ、読経をリードされた。田中師は大事なく数日後退院された。

出発

31日00:20、羽田発タイ国際航空でバンコックへ、そこでブータン航空に乗り換えインド・コルカタ経由でブータンのパロ国際空港に到着。約12時間を要した。

ブータン王国はバングラデシュの北に位置するが、間にインド領が入り込んでいるのでインドと接していて、国全体がヒマラヤ山脈の一部である。西は同じくインド領を挟んでネパールと、北は中国と接している。九州とほぼ同じ面積で人口は約75万人。元首は5年前結婚されて日本を訪問された5代国王ジグメ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク王で、政体は立憲君主制である。来年で王朝成立110年だが、2008年に初めて全国統一選挙を行い、民主制議会を立ち上げて憲法制定したばかりである。国民の生活ぶりは某氏によると日本の江戸時代だろうということであり、成人識字率は66%ということである。

見学初日

今回の訪問地は西部地区のパロと、パロの北東方へ道程60キロの首都ティンプーである。パロ国際空港は狭い山間（やまあい）に滑走路1本あるだけで、世界でも有数のこじんまりした国際



パロ国際空港：山間にたった1本の滑走路

空港だという。24名が2班に分れ、トヨタのマイクロバス2台に分乗してティンプーへ向け出発した。途中15世紀に作られたという吊り橋を渡って寺院に参拝し読経した。2台のマイクロバスにはそれぞれ現地のガイドが添乗した。ガイドによると観光客を乗せる車はトヨタにせよ、と行政府からの指示があったとのこと。かつて某国製のバスが山道を走行中ブレーキが利かなくなるという事故が起き、それがきっかけだという。因みにブータン国内に交通信号機はない。放牧された牛や馬が道路に出たらそれが赤信号だという。車窓から見る乗用車は断トツでスズキだった。

標高2,300~2,400メートルの首都ティンプーに入って市内観光、尼僧院、メモリアル・チョルテン、王国の政治と宗教の中心である巨大なタシチョ・ゾン（アフターファイブでないと見学できない）等を訪問し、ホテルでブータン料理を堪能して一日目は終わった。タシチョ・ゾン近くにある王宮は、ガイドに「あれが王宮です」と指さされても判然としないほど小規模のものだったが、撮影禁止だった。

旅行期間中にホテルと町のレストランで食事したがメインとなるものはどこでもほとんど同じ料理だった。主食は味付けしたパラパラの米で、副食は野菜や根菜、肉類の煮物だった。旅行中たった1回、干し魚と野菜の煮物がでたが、魚は骨が多かった。この魚は何処で捕れたものか聞いてみたらインドから来たとのことだった。ホテルではバイキング方式で、この他に果物や西洋風の食材があった。コーヒーはどこもパウダーだった。ビールとワインも用意されているが毎週火曜日は禁

酒日である。ブータン料理はとびぬけて辛いと聞いていたがまったく辛くなくて、辛み大好きの私には不満だった。そのことをガイドに言うと、厨房では快くブータン本来の一皿を作ってくれた。やはり辛かった。ガイド曰く「ブータン人は皆唐辛子中毒者です」

見学2日目

2日目はホテル近くの時計広場や中央郵便局を訪ねた。中央郵便局ではブータンでは最も有名になっているタクツァン寺院のポスターの前で写真を撮り、その場で即、1枚30ニュルタム（約45円）の「マイ切手 12枚シート」を作ってくれるユニークなサービスがあった。勿論、作ってもらい妻と兄宛の絵葉書に貼って投函した。妻宛には11日後、兄宛（山形）には21日後に届いた。



マイ切手：1枚30ニュルタム（約45円）
サイズ：3 × 4 センチ

ティエンブー市街を一望する高台に建つ高さ51メートルの金色の釈迦像の前で読経した。この建設資金はシンガポールと香港の大富豪が提供しているという。外構の一部が未完成であった。

パロに戻る車中、他のグループの女性ガイドはブータンのポピュラーソングを披露し、皆で高ら

かに合唱して大いに盛り上がったらしいが、私達のバスの男性ガイドはブータンの枕詞とも言えるGNH（国民総幸福量）について話ってくれた。

GNHという理念がいつどのようにして成立したのかは諸説あるらしいが、1970年代後半までに4代国王によって策定されたものようだ。その骨子は

- 1、 伝統文化の尊重
- 2、 自然保護
- 3、 グッドガバナーメント（良い政治）
- 4、 持続可能な経済発展

以上がGNHの四つの柱。その他に王制に関すること等。

この指針の下に民主的な近代化を図ることとしたその結果・・・

国民平均一日1時間半の祈り、どこに行っても見られる風に踊る経文旗（竿に幟（のぼり）のように掲げるダルシン、紐に吊るして横に張るルンタ）のように、宗教的習慣の維持。職業や年齢を問わず伝統の着衣ゴ（男）キラ（女）の着用。建物は6階建てまでとし（釘を1本も使わない）、様式や外観はブータン古来のものとする。植林の奨励。現国王に男子誕生の際、国民のお祝の申し出に対し、10万本の植林を希望されるという国の将来を思う態度。民主的な総選挙を実現。王位の生前継承（自分に力があるうちに後継者を見定めたいのと、後継者争いを避けるためらしい）。就学の奨励、英語による教育。急速な近代化を避けるスローライフ。農産物収穫量増大による税負担感の軽減、等々。国民は王を尊敬し、スローライフを楽しんでいるようである。

パロでは市内観光を初め、博物館、政治・宗教の拠点パロ・ゾンなどを見学して2日目終了。

3日目

ブータン最古の寺院キチュ・ラカンに参拝し、昨日よりご本尊にお供えして仏の恵みを頂いたという仏画を地模様にした白布（カタ）を、高僧自ら私達一人ひとりに掛けてくれた。その後、ブータン王国紹介には欠かせない、断崖絶壁にへばりつくように立ち並ぶタクツァン（虎の隠れ家）寺院を遠望した。この寺院に参拝するには登り口か

ら片道3時間以上を要し、一日行程である。

午後、ブータンで最も有名、且つ尊敬されている日本人、故西岡京治氏の功績を顕彰するために建てられた仏塔ニシオカ・チョルテンに参拝した。

西岡氏は大阪府立大学農学部出身。ネパール学術調査隊等で実績を積み、1964年海外技術協力事業団（現・国際協力機構）の農業指導者として夫人と共にブータンに赴任した。当初はブータンのあらゆる分野の指導的立場にいたインド人官僚に受け入れられずに苦労したようだが、農家に泊まり込んだりして徐々に指導の範囲を広げて農民の信用を得た。彼の指導理念は現地の実情に即したもので、しかも斬新的であった。赴任期間3年の成果を見届けて帰国したが、ブータン農業への思い断ち切れず、再訪してみると嘗ての農家は耕作を止めていたという。問いただすと「ニシオカの指導で収穫が倍になったので次の年は休んだ」とのこと。西岡氏は中途半端な支援ではいずれ元の木阿弥になることを自覚し、日本から導入した野菜、果物の栽培や品種改良を指導し、荒地の開墾、橋を架け、農機具の導入など農作業の軽減策、そして収穫物の販売方法等々を指導、達成した。

その他に庶民の生活改善、産業基盤の企画等、多方面に寄与した。その功績により1980年国王から「国の恩人」として、民間人に贈られる最高の爵位「ダショウ」を授かった。これはブータン史上初の外国人受賞者となった。ブータン人が尊敬して止まないダショウ・ニシオカの誕生である。

1992年帰国直前、病のため倒れ28年間に亘るブータンでの支援活動は終わった。享年59歳。同年3月26日、国王及び政府によって国葬が執り行われた。ご遺体はご夫人の意向によりパロの飛行場、市街地、棚田などが見渡せる丘の上に埋葬された。即ち仏塔ニシオカ・チョルテンである。ガイド曰く「ブータンには国王の墓はないがダショウ・ニシオカの墓がある！」輪廻転生を信じるブータンでは亡くなると茶毘に付し、その骨を細かく砕いて粘土と練り上げ、ゴルフボールよりやや大きめの円錐形に数十個形成する。底に直径5から6ミリの穴をあけ、薄い紙に書いた経典を巻物にして差し込む。これをツァツァと言ひ、故人の喜びそうな場所に置く。車で走っていると道路脇の崖の隙間などに白いのや赤みがかつたツァツ

ァを沢山見かける。



寺院のマニ車の傍らに置かれたツァツァ



ツァツァの底部

4日目、帰国

4日目は帰国のための長いながい移動日で、08:00にホテルを出て、翌日の06:40(JST)羽田に着いた。

感動したガイドの話

マイクロバスで移動中、ガイドが話してくれた彼の生い立ちに感動した。

男性ガイド ペマ・ワンチュク氏 31歳、既婚、1歳7か月の男の子あり、妻は商店を持っている。兄がいて、父53歳、母51歳でご健在。生地はパロから山道を3日掛かってやっと辿り着く標高4,000~5,000メートルのヒマラヤ山地でヤクの放牧で生計を立てていた。村民60人。

「父が所用でパロに行っていて、母がヤクの世話をしていた時陣痛が始まり、近くの洞窟に入り夜一人で赤ちゃんを産んだ。それが私である。翌

日私を懐に抱いてヤクの世話をした。1週間後に父がパロから戻った。」(この時お母さんは20歳の筈。兄さんがいるのでたぶん17歳ぐらいで結婚か?)

「父は教育に熱心だった。8歳の時、11歳のいとこと双方の父親、計4人でパロ郊外の小学校に来て入学を申し込んだ。面接官は私に動物その他の絵を見せたりして質問したが、これまで家族としか話したことがなかったので怖くて何もしゃべれなかった。そこで面接官から、耳の聞こえない者は入学を許可できないと言われた。父は突然私を殴ったり蹴ったりした。私は何が何だかわからず痛いのと怖さで大声を出して許しを得た。その様子を見て面接官は耳が聞こえることを知り入学を許可してくれた。」

「父は学校の近くの森の中に半日かけて二人のために掘っ立て小屋を作ってくれた。勿論電気も水道も何もない。そこで2週間程一緒に暮らし、米を買い与えて二人の父親は村へ帰った。」

「いとこがごはんを作ってくれた。野菜は食べる分だけ近くの畑から盗んだ。農家の人はそれを知りながら大目に見てくれた。休みの日は一日中近くの家の子守をして日本円に換算すると約10円頂いた。それをいとこに渡した。雨が降ると雨漏りして、教科書とノートが濡れないよう懐に抱いて一晩中立って過ごしたことも度々あった。」

「夏休みに家に帰るのが最大の楽しみだった。心弾ませ家へと急いだ。途中、母への土産にしようとして野菜や果物をこっそり失敬して隠し持った。これにはいくら空腹でも手をつけなかった。夏休みは一週間しかなかったので往復に6日かかり、家には1日しか居られなかったが、母の作ってくれた料理は最高においしかったし、ヤクの乳に舌鼓を打った。」

「父は半数のヤクを親戚に譲り、その金で上級の学校に行かせてくれた。大学には進まず、父母に感謝しながら人のために働こうと思った。感謝の念を持ち、国のため、人のために働くことを学ぶことが教育だと思う。」

無表情で淡々と語る31歳のペマ氏の話に皆、心を動かされたようだ。聞いていて涙が出たという人や是非伝記にまとめるべきだ、などの評を聞いた。ペマ氏が父親に殴られ蹴られて入学を許さ

れたのは23年前、日本の元号では平成5年であることなどを考えると、ブータン王国の実情に触れた思いがする。後日分かったことだが、国を挙げて就学を奨励しても、親は故習から抜け出せず我が子は難聴者だとか弱視者だとかの仮病を使い就学を拒んだという。ペマ氏の父親はその正反対の行動を取った、正に先見の明であろう。

ペマ氏はJICAの日本語講座で5か月間学んだ。どのような事情か知らないが日本の木村夫妻のご好意で3か月間お世話になった。その間、日本の色々な所に連れて行ってもらった。石垣島にも行った。最初は挨拶程度しか言えなかったが……。その後2回通訳の仕事で訪日した。今、4か国語できるとのこと。

国王は日本の盆栽に関心があり、日本から招いた盆栽作家と国王との通訳者に抜擢されたことを誇りにしていた。



伝統的な仮面踊り

帰国後、女性ガイドから旅行の無事を確認する携帯電話がメンバーの二人にあった。やはり優しい国民だと思う。

ブータン王国はいずれ喧噪から逃れ、心底安らぎを求める旅行者の楽園になるかも知れない。

(平成28年10月12日 記)

高専ロボコン2016全国大会応援記

鳥羽商船OB (S40E卒) 岩田 仁

昨年11月20日両国国技館で恒例となっている高専ロボコン全国大会が開催された。この大会は毎年末NHKテレビで全国放映されるため茶の間でも話題にのぼることがある。理系オンチの我が女房殿も知っているほどであり高校野球の甲子園大会とまではいかななくてもかなりポピュラーな大会でもある。NHKが主催者に加わっている関係で今大会も12月23日NHK総合で放映された。

入場時に手渡された資料によれば発想力と独創力を合言葉に今回で29年目を迎えたとのことである。

母校の全国大会出場を知るも、入場券の入手方法が分からずその手配が果たのが大会直前となったためたった3名のさびしい応援だった。当日に会場で担当の先生から入場券を頂き2階正面の最後列にどうにか座席を確保できた。

今年の演技課題

今回の競技課題はロボットによる【新大陸開拓】である。各チームは「探検家」として新大陸を目指し、港町のブロック置き場からブロックを持って海を渡り新大陸に砦を築く競技で3分以内で築いた砦の高さを競うゲームであった。アイデアのポイントは出発地の港から新大陸にブロックを運ぶ方法と砦としてブロックの積む手法にある。

新大陸までブロックを運ぶ方法も各チームのアイデアの発揮どころ。船で運ぶ、島に橋を架け車両で運ぶ、ブランコに載せる、圧縮空気(大砲?)で島まで吹き飛ばす等、応援者を楽しませるユニークなアイデアが多かった。中にはアイデア倒れで島に到達できないチームもあり、5段も積みあげるチームもありで応援も熱が入る。

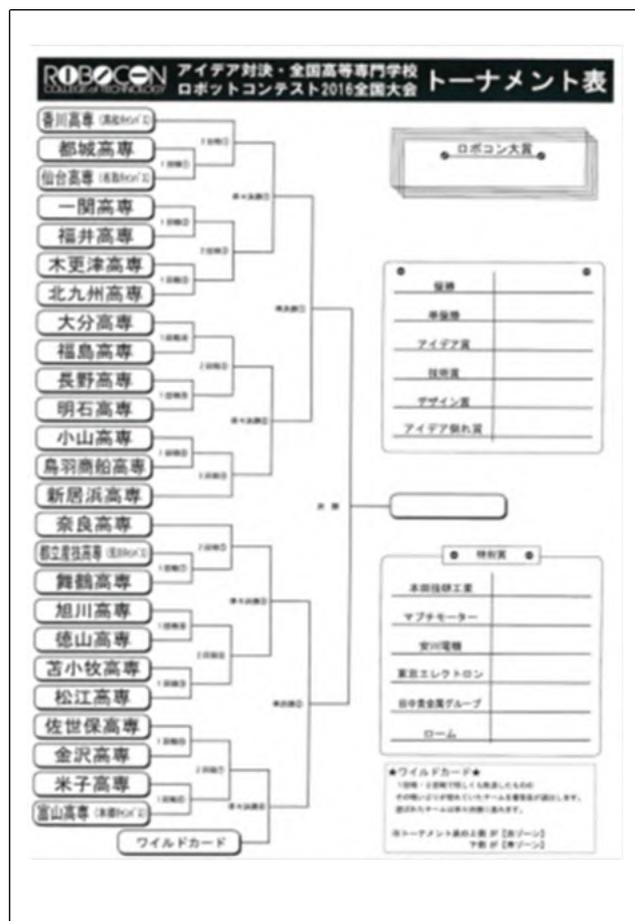
初戦敗退

我が母校は奮闘むなしく初戦敗退となったが学生にとっていい経験になったことでしょう。悔し涙も嬉涙も人間成長の良い肥やし。今回の悔し涙をバネに来年、再来年と飛躍してくれることを期待しております。

ロボット技術は日本の国技

世界の最先端に行く日本のロボット技術は現代日本の国技とも言えるでしょう。

この全国大会が両国の国技館で開催されるのは大きな意味があると思います。目の前で活躍・奮闘してくれた多くの若者たちが将来ロボット技術者として大成し「日本の国技」の大きな支えとなってくれることを願っております。



トーナメント表 (出場25校)

7月15日が



記念日に

監事 本望 隆司

海から届ける写真展@大黒湯

国内の航路だけを航行する船を内航船（ないこうせん）
と言います。

海外と航路を結ぶ外航船と違い、内航船は船員が全て日本人。
国内の物流に欠かせない存在です。けれど今、その日本人船員
が減り続け、深刻な問題となっています。

そんな中、内航船好きの一般の方が、船員たちとの交流を通
じて、7月15日を「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」→「内
航船の日」にしよう！と呼びかけ、昨年末、日本記念日協会より
正式に記念日として登録・認定されました。

第一回目の記念日となる今年7月15日、東京スカイツリー
のふもとの銭湯「大黒屋」ロビーにて、内航船の船員たちから
届けられた、雄大な海と空、働く船の写真の数々を展示します。

島国日本の周りには、いつでも内航船が海を行き来して物流
を支えています。湯舟と一緒に楽しみください。

（2016年に配布された写真展案内チラシより）



大黒湯

1. 記念日誕生までのいきさつ



「内航船の
日」が誕生し
た。2015年
12月一般社
団法人 日本
記念日協会が
7月15日を
「内航船の日」
と認定した。
（715＝ナイ
コウ）

昨年、2016

年が、正式には第一回目の「内航船の日」となっ
た。

この記念日は、大変ユニークないきさつから誕
生した。内航船員や陸上のネット仲間が SNS 等
を通じて交流する中で、内航船を応援しようと、「コ
ンテナくん」を出版した絵本作家 谷川夏樹さんが
発案し、同氏が日本記念日協会への申請を「全日
本内航船員の会（事務局・松見準氏）」に依頼し、
同会がこれを引き受け申請して認定が実現したも
の。申請に必要な費用は市民によって集められた。

一般の方が「内航船の日」を発想された意義は
極めて大きい。海事関係者はいつも「陸上の人
は海運に理解や関心がない」とこぼす声を聴くが、
それは海事関係者が知らないだけで、「陸上の人」
は大きな関心を寄せいていることが証明された。



7月第三月曜日の「海の日」が何のための日なのか、認知度は極めて低いのが現状であるが、その原因の一つは、海事関係者自身の努力と取り組み方の研究不足があるからではないか。

「内航船の日」はネットを通じて、陸上の人と船員が交流を重ね、認定にこぎつけたといういきさつに注目すべきである。「海事思想の普及」などという、上から目線の発想で、一般の方々に「海運のことをもっと勉強しろ」的な態度では理解は得られない。

2. 東京・大黒湯での記念写真展

7月15日～31日まで、「内航船の日」記念写真展を、「全日本内航船員の会」が開催。海上の船員たちが撮影した内航の船や風景の写真20数点が展示された。筆者は7月29日取材に行った。全船協の岩田会長は7月17日にいち早く視察され、記念日当日の7月15日には共同通信社の編集長も視察されたという。

写真の展示は、入口ロビーの壁一面に内航船員の撮影した写真が展示されており、ロビーのテーブルには「船員たちにひと声！ノート」が置かれていた。

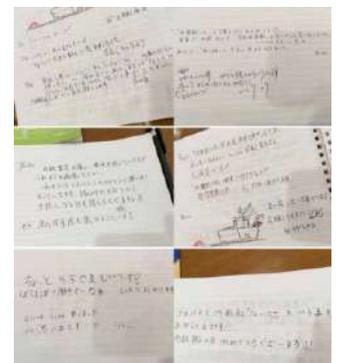


見学する岩田会長



出展作品

ノートを覗いてみると、「内航船という言葉は初めて聞いた」「船はなくてはならない存在だと改めて感じることができました」「内航船の日、頑張ってください！！」「縁の下ならぬ海の上の力持ち！」「ぼくも海ではたらかたいなあ」などのメッセージが目をついた。この記念日がしっかりと「海運」とリンクしながら盛り上がっていることが分かった。



「船員たちにひと声！ノート」

「内航船の日」は多くのメディアでも取り上げられた。共同通信の「海運水産ニュース」をはじめ、海事プレス、日刊CARGO、月刊 内航海運、内航海運新聞で記事となっている。

同時期に、「海の日」の記念行事で内航のコンテナ船「なとり」の見学会が開催され、新たな「内航船の日」記念日との相乗的な盛り上がりも広がった。

3. 残念な出来事

この記念日をめぐり、善意で記念イベントを企画された海事関係会社に対し「外航関係者に挨拶もなく、勝手にイベントを企画するのは不愉快」「内航の日に反対する」「ツイッターの交信は遊びに過ぎない」と中傷と誹謗の言葉で、電話や FAX で抗議する悪意ある匿名団体が現れ、この会社の善意の企画は中止を余儀なくされた。こんなことをして、内航に理解を示す陸の人々に対し、どれほど失望を与えるか計り知れない。被害の拡大と凶悪化を防ぐため、全日本内航船員の会の事務局はすぐに警察へ被害を届け出している。

この海事関係会社による神戸、横浜の2ヶ所で企画されたイベントが実現していれば、目玉イベントになったに違いないだけに残念である。

このような妨害があったが、この1社を除き、これをはねのけて「内航船員の日」記念行事は整然と進められた。

(大阪では、絵本作家谷川夏樹氏の作品展が行われた)

「全日本内航船員の会」事務局はこの記念日について、「市民から贈ってもらった『内航船の日』を産業側で壊してしまうわけにはいかないと考え、急遽、業界関係者へ手紙やチラシを送るなどのPRを強化しました。不安を抱えたまま記念日へ突入となりましたが、当日は、第一回目の記念日を応援する圧倒的な多数の市民から寄せられた記念日を祝うコメントで、Twitter など SNS は溢れたんです。たいへんありがたい」と言っていた。ハッシュタグ「#内航船の日」を使って、この日のために用意した内航船の写真やイラスト、動画、音声、コメントが多くの陸の人によって発信されており、7月15日を過ぎた今も、名残惜しむ人々によってハッシュタグを使ったツイートが続いていると言う。

<https://twitter.com/hashtag/%E5%86%85%E8%88%AA%E8%88%B9%E3%81%AE%E6%97%A5?f=tweets&vertical=default>



「海の日」7月第3月曜日(2016年7月18日)の記念イベントで行われた、コンテナ船「なとり」の見学会

平成19年第9回グリーン購入大賞優秀賞 平成21年第3回ものづくり日本大賞優秀賞 平成22年資源循環技術・システム表彰 平成23年第1回エコマークアワード奨励賞
広域認定事業所 株式会社おぎぞ
会長 小木曾 順務(鳥羽44E)
〒509-5401 岐阜県土岐市駄知町1468
電話 0572-59-8639 FAX 0572-59-4546
船舶士官の経験を活かし、10年前廃食器中のポキサイトを資源化しエコマーク付きの給食用磁器食器を開発し全国展開。この実績経験を活かし、今年度新選標準(経産省標榜)で「廃PETボトルを自主回収しPET食器を製造販売する事業」で認定を受け事業展開に入る。ご支援をお願いします。

第18回 イレブンマリナーズコンペの報告

幹事 岩田 仁

当日は夜半からの雨が明け方には風を伴い季節外れの大雨となりコンペには生憎の天候となってしまった。午後には雨が上がるとの天気予想を信じ雨のなかを駅に向かう。

一時は中止も考えたがスタート時間を30分遅らせ雨が上がるのを待ってどうにか予定通りコンペを開始することができた。

イレブンマリナーズは全船協の前身である十一会にちなみ11月11日とIの並ぶ日にこだわり日時を設定しておりますが、もう少し早い時期にとの要望もあり次回は検討したいと思っております。

海事技術者不足はコンペにも及びシニアと言えども現役で頑張っている人も多く参加者集めが幹事泣かせとなっております。

今回出席頂いた皆さんありがとうございました。

会場はシニアの足腰の負担を考慮し前回同様荒川の河川敷コースとしました。

雨が上がると暑くも寒くもなくそのうえ風もなく意外とゴルフを楽しむコンディションとなりました。

日頃の運動不足で予想外のスコアーの人いたようですが、とにかく全員が怪我もなく笑顔でホールアウトできたことは幹事として何よりでした。

成績表を下に添付しておきます。

また、来年もゴルフを楽しめるよう常日頃足腰の鍛錬に精心しましょう。



成績報告

順位	氏名		OUT	IN	Gross	HDCP	NET	摘要
優勝	岩田 仁	様	42	47	89	15.6	73.4	NP×1
準優勝	飯島 寿	様	50	48	98	22.8	75.2	NP×1
3位	宮寺 重男	様	54	55	109	31.2	77.8	LD×2
4位	古谷 明雄	様	59	56	115	34.8	80.2	
5位	内田 成孝	様	55	58	113	31.2	81.8	
6位	水野 博之	様	58	60	118	36.0	82.0	

*NP:2ホール該当者なし

スコア計算方法: 新ペリア(隠しホールスコア合計×1.5-72)×0.8

打数制限: パー×2

HDCP制限: 男36

隠しホール: OUT: 1, 3, 4, 7, 8, 9, IN: 10, 11, 13, 15, 16, 17,

海運・造船業界の求人動向 (2016年11月現在)

【全体の動き】

10月下旬から求人数が増加傾向にある。年末から急激に求人が増える傾向は2012年以降続いているが、すでにその動きが出ているのか、一時的なものか、現時点では判断が難しい。希少性・専門性の高い求人が多く、船長・機関長経験をもつ監督や、マンニング・船員管理の職種では、比較的高い年収が提示されている。管理部門（人事や経理）での求人など、異なる業界の人材も採用対象としているが、その場合英語力が求められる。

【営業系-船舶運航管理、用船など】

ポストフィクスチャー業務（用船契約の管理、用船料の支払い計算、入出港や荷役に関する各種手続きなど）は、依然として求人数が多いものの、落ち着きを見せ始めている。商社系海運会社とシップブローカーが採用に積極的で、実務経験に加え、高い英語力が問われる。

【海技系-船舶管理、工務・海務監督】 船長・機関長経験を持つ監督の求人がさらに増え、年収も増加傾向にある。採用に苦戦している企業では、乗船経験のみだが今後監督を目指す人材を社内育成する前提で採用を始めた。LNG乗船経験を持つ人材が注目され始めている。

【その他-船級、外資メーカーなど】

外資系船級協会では専門分野を持つ検査員の求人が目立つ。電気、素材などの分野が期待されているが、採用ニーズが高い一方で該当者が少なく、どの船級でも苦戦して

いる。船用機器、船用品の営業職求人は、技術知識と英語力を期待する声が強く、採用基準が厳しくなっている。

■最新求人動向からみる転職アドバイス

依然として厳しい市況下であり、企業は即戦力採用の意向があるものの、人材の売り手市場が続いていますので、人手不足解消のために社内育成前提で採用する企業が出始めています。20代～30歳くらいの乗船経験を有し、今後外航船の船舶管理を考えている方は、企業のニーズが出てきています。ただし、海上職から陸上職への転職は待遇が変わりますので、条件面等はよく確認いただきご検討される事をお勧めします。

海務監督の求人では、船長経験、もしくは1級海技士（航海）免状を有する監督に安全指導もお任せする求人が増えています。またマンニングのニーズもありますので、経験のある方はお問合せください。

30代～40代の工務監督の求人は多数ありますので、転職の際には具体的職務内容や条件のほか、将来の事も考えて職場環境（人数や組織構成）も含めてよく検討いただき、焦らずにじっくりと良い選択をしていただければと思います。

年末から企業からの求人依頼が増える傾向が数年続いていますので、転職を考えている方は、まずキャプタンまでお問合せください。

<情報提供元>キャプタン株式会社

担当：佐々木

TEL：03-3497-9335

MAIL：marine@mail.capla

海事ニュース

◇大洗で津波避難訓練／商船三井フェリーの大型船使用

官民で組織する大洗港入出港安全対策協議会（会長=萩中広樹・茨城海上保安部長）と商船三井フェリー（大江明生社長）は10月31日、茨城港大洗港区で「カーフェリー乗客津波避難誘導訓練」を実施した。2011年3月の東日本大震災を教訓に制定された11月5日の「津波防災の日」に合わせて取り組んだもので、大型フェリーを使用した津波防災訓練は国内初となる。緊急時の適切な対応のための体制づくりと津波防災に対する意識高揚などを目的に、同協議会会員など関係者ら約140人が参加した。

訓練は、第3埠頭東岸に着岸中の「さんふらわあ だいせつ」（11、401 総トン）の船内で、福島沖で地震が発生して津波警報が発令された想定で行われた。

国土交通省の大坪新一郎・大臣官房技術審議官のあいさつに続き、机上形式による情報伝達訓練と実技訓練（津波避難訓練）を実施。実技訓練ではターミナル内にいる乗客の船内誘導訓練とフェリー緊急離脱訓練が行われ、係留ホーサーを切断して同船が緊急離岸し港外に退避するなど、災害発生時さながらの訓練となった。

（日本海事新聞 2016年11月2日付け）

◇海員組合全国大会/予備自衛官起用反対を決議

全日本海員組合の第77回定期全国大会は日程最終日の11日、民間船員の予備自衛官への起用反対など3つの大会決議を採択し閉幕した。同日の役員選挙で再任された森田保己組合長は大会締めくくりのあいさつで、「われわれは危険なところに行くために船員になったわけではなく、家族も望んでいない。（予備自衛官への起用反対は）船員の総意」と述べ、直ちに大会決議を踏まえた関係機関への申し入れに取

りかかる考えを表明した。

森田組合長は、大会中に多くのやり取りが展開された後継者問題に関し、「しっかり確保・育成しなければ、（カボタージュ規制〈国内海上輸送の自国籍船限定〉の緩和、国内部門への外国人船員導入に）いくら反対してもエックスデーは来てしまう」と強い危機感を表明。

「船員自らも後輩の育成を進めなければ、本当に心配する状況が来る。その時に『船員を育てておけばよかった』ということでは遅い」と後継者確保の活動を加速させる意向を強調した。

また協和海運を巡る雇用問題については、「組織全体の問題」として、引き続き組織を挙げた対応を行う考えを示した。

採択された大会決議は、「船員を予備自衛官補とすることに断固反対する決議」「久里浜-金谷航路の存続を求める決議」「公平・公正な公共交通体系の確立と本四架橋で働く組合員の雇用と生活を守る決議」の3つ。

（日本海事新聞 2016年11月14日付け）

◇内航船員の安定雇用へ向けて／関東運輸局が就職懇話会

国土交通省関東運輸局は4日、横浜市内で「若年船員就職促進懇話会」を開いた。懇話会には同運輸局管内の水産系高校4校と館山海上技術学校（千葉県）の担当者、関東地方船員対策協議会の内航関係者らが出席。内航業界側、教育機関側双方で採用状況や要望などについてプレゼンテーション、意見交換を行い、内航海運の将来を担う船員の安定雇用に向け、関係者間で連携していくことが確認された。

懇話会は、内航船員の安定的な育成・確保を考える場として、2012年度にスタートし、今回で4回目（14年度は日程の都合で開催せず）。

内航業界のプレゼンでは、新卒者の採用状況、業態ごとの船内勤務態勢などが説明されたほか、学校側への要望として、「辛抱強い気力とコミュニケーション力を養ってほしい」「向上心、協調性を重視している」「あいさつなど基本的なことができる元気な学生を育ててほし

い」「教員・学生と事業者との面談機会や体験乗船などの増大を望む」などの意見が出された。

一方、水産系高校などからのプレゼンでは、各校での海運関係企業への就職状況、学生の海運業界に対する意識などが紹介されたほか、事業者に対しては「見学や体験の機会をつくってもらいたい」「各社に在籍しているOBに学校訪問してほしい」「在学中に身に付けてもらいたい知識・技術スキルについて詳細を教えてください」などの要望があった。

(日本海事新聞 2016年11月21日付け)

◇羽尾海事局長が記者懇でSOX規制の強化内航への影響は大と認識 情報の提供や共有等に努める

このほど開かれたIMOの第70回海洋環境保護委員会で、船舶燃料油の硫黄分(SOX)濃度規制強化が、2020年から開始されることが決定した。これを受けて内航海運業界では、今後の対応への懸念が広がりつつあるが、これについて国土交通省の羽尾一郎海事局長は11月24日の定例記者懇談会で、「今後、内航業界に対して、規制の対応方法の選択に役立つような、情報提供などに努めたい」との対応方針を示した。

そのほか、11月7～18日まで開催された「第22回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP22)」などにも言及した。〈具体的対応方針〉

このうちSOX規制に関しては、「当該規制はマルポール条約で全ての船舶に対して要求され、内航海運にも大きな影響があることは認識している。これに対する対応方法として考えられるのは、①この規制に適合する燃料油の使用②SOXの排出を減少をさせるスクラバー(排気ガス洗浄装置)を新たに設置する③硫黄分を含まないLNGなどの代替燃料油の使用の3点。そのため海運事業者の方々は今後、規制適合燃料やLNG燃料の価格、スクラバーの導入価格などで規制への対応を決めていくことになると思う」と述べるとともに、「そこで当局としては今後、規制適合燃料油の価格や品

質、スクラバーの価格や操作上の留意点、LNG燃料油価格など、規制の対応方法の選択に役立つ情報などを整理して提供するとともに、海運業界の方々と情報共有を図っていききたい。また、環境負荷低減に向けた新規性ある取り組みの支援なども行っていききたい」との対応方針を示した。〈情報共有にも努める〉

さらに、内航海運業界に対して、「本件については特に内航業界では、懸念を持っておられる方も多く聞いている。こうした状況を踏まえて内航総連では、当該規制への対応方法に関する情報の整理・共有の場として、環境安全委員会の場などを活用していかれるということなので、私どもとしても内航総連との間で、そういう場を活用しながら関係者の方々の意見を伺っていききたい。

また、旅客船業界についても日本旅客船協会との間で、相談に応じていききたいと思っている。いずれにしても、前述のようにまずは対応方法の選択に役立つ情報を整理して、きちんときめ細かく対応していききたい」との意向を示した。

〈COP22〉

COP22に関しては、昨年採択されたパリ協定の実施に向けて、その基本的なルールを2018年までに採択することが合意された。当局としては、温室効果ガス(GHG)対策において、わが国の優れた省エネ技術を活かし国際競争力の強化を図るとともに、全ての船舶に公平な競争力を課していくことが大事との観点から、IMOのGHG対策に引き続き積極的に取り組んでいきたい。

(内航新聞 2016年11月28日付け)



富山高等専門学校

○商船学科卒業証書授与式、専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式

9月27日、射水キャンパスにおいて平成28年度商船学科卒業証書授与式ならびに専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式が挙行されました。商船学科卒業生40名、海事システム工学専攻科修了生1名に対し、石原外美校長より一人ずつ証書が手渡されました。

石原校長の告辞では、「これから多くの人々との出会いが待っているが、その出会いによる刺激や触発によって人は大きく成長し、その後の姿が大きく変わることがある。是非、人との出会いを大切にし、これからの人生をより豊かなものにして欲しい」と述べられました。



卒業生全員により登壇礼に倣った別れの挨拶

続いて、全日本船舶職員協会専務理事 及川武司氏からは、「海洋国家を支える船員としてこれからも切磋琢磨し、世界を舞台に活躍することを期待している」と激励のお言葉を頂きました。続いて在校生代表からの送辞では、「学校行事や部活動などを通して先輩たちから学んだ多くのことを、今後の活動に活かし、本校をますます発展させていく」と述べられました。卒業生代表からの答辞では、「富山高専や長期実習で得た、たくさんの思い出と学びと経験を糧

に、自分たちの人生の航路を切り開いていきたい」と答辞を述べました。

卒業証書・修了証書授与式終了後、学生から感謝の言葉が教職員や保護者に改めて送られ、卒業生全員により登壇礼に倣った挨拶が行われました。

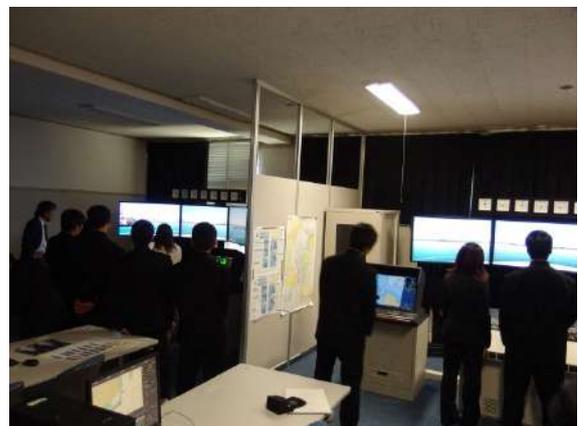
○2年生校外研修、3年生工場見学

10月21日、2年生の校外研修が実施されました。学年全体で岐阜県高山市を訪れ、高山別院や旧城下町の歴史的な景観を見学し、ご当地のグルメを楽しみました。

また10月28日には、3年生の県内工場見学が実施されました。商船学科はまず、岩瀬と富岩運河環水公園を結ぶ富山水上ラインのアルミ合金製電気推進旅客船“fugan”に乗船し、中島閘門で水のエレベータを体験するなど、約1時間のクルーズを楽しみました。午後からはYKK黒部工場を訪問しました。社員の方から業務内容や製品について説明を受けた後、工場で製品の製造工程を見学しました。

○オープンキャンパス

11月5日および12日、中学3年生とその保護者を対象としたオープンキャンパスが行われました。商船学科では、5日はまず航海シミュレータを利用し、富山新港で行き違う2隻の船の操船体験を行いました。



航海シミュレータでの操船体験

続いて、本校教員の指導の下、中学生が小型エンジンの組立、運転を行いました、また船員の業務、船員として働くことの魅力などについて説明も行われました。



船橋での操船見学



機関制御室での機関の説明

また12日は、練習船若潮丸で富山新港付近の体験航海を実施しました。

○11月から3月の主な行事予定

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 11月5日, 12日 | オープンキャンパス |
| 11月11日 | 2キャンパス合同球技大会 |
| 12月4日, 11日 | 進学個別相談会 |
| 2017年 | |
| 1月18日 | 学生会長選挙 |
| 1月22日 | 推薦選抜試験 |
| 2月19日 | 学力選抜試験 |
| 2月27日 | 終業式 |
| 3月16日 | 本科卒業式、専攻科修了式
(教務主事補 商船学科 山田圭祐) |

○カッターレース大会

7月19日(火)、本校臨海実習場にて校内カッターレース大会が実施されました。本年度は、保護者有志によるチームにもご参加を頂きました。本来の開催予定日であった14日は天候不良のため順延となっておりましたが、予備日の19日には、空は青く澄み渡り、海も鏡のように穏やかで、全チームが全力でオールを漕ぐことができました。沢山の見学者様のご来場も頂き、応援も大いに盛り上がりました。



青空もと全力でオールを漕ぐ

○第51回全国高専体育大会

8月17日(木)から9月4日(日)まで開催された第51回全国高専体育大会において、多くの学生たちが日ごろの練習成果を発揮して、それぞれ見事な成績を収めました。その一部を以下に紹介します——
 バドミントン女子個人ダブルス：優勝、同女子団体：3位、水泳男子100m背泳ぎ：3位、同男子200m背泳ぎ：3位、陸上女子総合：3位、同女子100m：2位、同男子砲丸投：1位、同女子やり投：2位、同男子円盤投：3位、同男子110mH：3位、同女子円盤投：1位、同女子200m：2位、柔道男子90キロ超級：3位。

○全国高等等専門学校プログラミングコンテスト

10月8日(土)と9日(日)、伊勢市観光文化会館(三重県)にて全国高等等専門学校プログラミングコンテストの本選が開催されました。3部門でコンテストが行われ、本校学生は競技部門で全国ベスト8に入り、特別賞を受賞しました。

鳥羽商船高等専門学校

学校

○鳥羽商船高専カッター部 人命救助で表彰

鳥羽商船高専カッター部が人命救助をしたことにより、鳥羽海上保安部から表彰を受けました。これは、平成28年6月26日16時ころ、普段活動をしている鳥羽市堅神町の海上において、カッターの練習中に、故障により沈みかけ漂流していた水上バイクの男女3人を発見し、カッター部員ら15人が救助した功勞によるものです。



榎本部長とカッター部のみなさん

平成28年7月29日に鳥羽海上保安部で表彰式があり、カッター部から代表者5名が出席しました。鳥羽海上保安部 榎本雄太部長から表彰状と楯が贈呈され、「大変勇敢で立派な行為である。今回のことは大きな社会貢献であるので、これを機に、今後も社会に尽くせる人になっていってほしい」と労いの言葉と力強いエールを受けました。

○「みえアカデミックセミナー2016」で講演

平成28年8月4日に三重県内高等教育機関、三重県生涯学習センターが主催する、「みえアカデミックセミナー2016」が、三重県文化会館1階 レセプションルームにおいて開催されました。



アカデミックセミナー会場

本校からは、制御情報工学科 中井一文助教が「ス

マートフォンを用いた小型船舶事故対策アプリの開発」のテーマで、一般教育科 鈴木聡教授が「辞書で見る古書の世界」のテーマで講演しました。

○本校学生が英語スピーチコンテスト 優秀賞を受賞

平成28年8月6日に三重県営サンアリーナで開催された英語スピーチコンテストで、商船学科2年生の見代健君が優秀賞を受賞しました。この英語スピーチコンテストは、電気製品などの安全性を認証する「ULジャパン」が開いており、今回で10回目の開催となります。

今回のテーマは「安心・安全な社会について」であり、見代君は「All Hands on Deck to Reduce Accidents」という内容でスピーチしました。



見代君のスピーチ

○本校練習船「鳥羽丸」四日市港祭りに参加

平成28年8月6日～8日に本校練習船「鳥羽丸」は四日市港霞ヶ浦地区に停泊し、四日市港まつりに参加しました。本校からは教員の他、有志の学生37名が参加し、8月7日には練習船「鳥羽丸」の体験乗船および一般公開で船内説明や、カッター大会の運営を行うと共にレースに参加しました。



四日市港の鳥羽丸

また、四日市港ポートビル内では本校ブースを設け、各学科のPR活動を行いました。

照りつける真夏の日差しの中にもかかわらず、小さなお子さんから年配の方まで520人を超える方々に鳥羽丸を見学していただき、大盛況のうちに終了しました。

○生産技術コンテストで準優勝

平成28年8月22日～23日にオムロン株式会社東京事業所で行われた、オムロン・高専機構共同教育プロジェクト「平成28年度生産技術コンテスト」の成果発表会に鳥羽商船の専攻科1年生3名からなるチームが参加しました。

台風の影響で残念ながら1高専が棄権となりましたが、発表会は接戦となりました。3連覇を目指す鳥羽商船チームは、自由課題としてペットボトルへの水の充填とキャップ締めを行い好評でしたが、規定課題で失敗があり惜しくも準優勝となりました。



成果発表会

○全国高専体育大会(陸上競技) 男子400mハードルで5位入賞

第51回全国高等専門学校体育大会(陸上競技)が、平成28年8月24日～24日に、名古屋市のパロマ瑞穂スタジアムにて開催されました。



表彰式 佐伯君おめでとう

本校から、参加標準記録を突破して男子400mハードルに出場した佐伯元規君(制御情報工学科3年)

が、56秒27の自己ベスト記録で5位に入賞しました。

○全日本ソーラー&人力ボートレース大会2016にて一時間耐久レース3位

平成28年8月27日～28日の両日、全日本ソーラー&人力ボートレース大会2016が、愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターにて行われました。

本校では商船学科の学生を中心にボートの設計から製作までを行いこの大会に出場しています。今年度は1年連続の出場となり新しく設計・製作した出来たての船体の「カマテック16号」で挑戦しました。

レースの結果は「一時間耐久レース3位」と素晴らしい結果を達成しました。



全日本ソーラー&人力ボートレース大会

○平成28年度三重県献血功労者表彰で金色有功章を受章

平成28年度三重県献血功労者表彰で、本校が金色有功章を受章し、後期開始日(平成28年9月26日)の全校集会において、全学生に披露されました。

金色有功章は、献血回数100回以上の献血者並びに献血活動継続年数20年以上の献血団体・献血推進団体及び献血推進者に授与されるものです。本校では長年、毎年秋の海学祭時に献血活動を行っており、今回その功績を評価していただきました。



献血功労者表彰式

○Hack U 2016 名古屋会場 優秀賞受賞

平成 28 年 9 月 25 日に開催された Yahoo! Japan 主催の Hack U 2016 名古屋会場において、本校制御情報工学科のチームが優秀賞を受賞しました！ 受賞作品は「ReScuVer」です。このアプリは、スキューバダイビングでの活動を支援します。通常は水中のカメラアプリとして使用しますが、緊急時には救難信号を発信するアプリになります。



優秀賞の制御情報工学科のチーム

○シンガポール・マリタイム・アカデミーとの 学術交流協定を更新

鳥羽商船高専は、シンガポールのシンガポール・マリタイム・アカデミー（SMA）との学術交流協定の更新を去る平成 28 年 9 月 8 日シンガポールにて行いました。本校からは、新田校長をはじめ関係教職員 4 名が SMA を訪問し今回の協定更新の調印式に臨みました。

両校は、平成 20 年 8 月に互いの教員や学生の交流、共同研究の推進などを目的に協定を締結し今に至っており、学生の相互訪問等を行っています。今年度は、平成 28 年 8 月 29 日～9 月 10 日まで本校の学生 10 名がシンガポールに滞在し SMA を訪

れており、今回の調印式は、その学生達への激励も兼ねての日程となりました。

また、SMA から本校へは、学生 12 名が 9 月 14 日～18 日までの日程で訪れ、本校の練習船「鳥羽丸」に泊まり込み、操船訓練などの船上研修等を行ったり、互いの文化を学び交流を深めるなど、更なる学生の研修成果を期待するものとなりました。



学術交流協定更新調印式

○第 45 回商船学科卒業証書授与式並びに 第 9 回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授 与式を挙

平成 28 年 9 月 25 日、第 45 回商船学科卒業証書授与式並びに第 9 回専攻科（海事システム学専攻）修了証書授与式を挙

式では、新田校長から商船学科卒業生 36 名に卒業証書、専攻科（海事システム学専攻）修了生 2 名に修了証書が手渡された後、「皆さんの多くが活躍する海洋は、自由で雄大な夢を持って活躍できますが、時に凶暴で、荒波にもまれ、苦難を感じることも多々あるでしょう。それを乗り切るには、あの「白鯨」の主人公イシュメールのように、強い生きる意志と他者を思いやる優しい気持ちが必要になると思います。この点をしっかりと自覚して歩んでほしいと思います。」と式辞が述べられました。

式の最後に、白い制服姿の卒業生全員が一行に並び、在校生に向かって「ごきげんよう」と挨拶し、帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンスを行い、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。



在校生への別れの挨拶 ごきげんよう

○イスタンブル工科大学の Cemil Yurtören 教授を 客員教授として招聘

トルコ共和国のイスタンブル県トゥズラ市にあるイスタンブル工科大学海事学部の Cemil Yurtören (ジェミル・ユートレン) 教授を本校の客員教授としてお招きすることが出来ました。平成 28 年 10 月 18 日より 3~6 ヶ月間、本校に滞在され瀬田准教授のもとで海上交通の安全管理に関する研究を行います。また、航海学や海上交通工学の講義にもご尽力をいただく予定です。



ジェミル・ユートレン教授、新田校長、瀬田准教授

○高専ロボコン アイデア賞&特別賞(本田技研株式会社)のダブル受賞、全国大会出場

平成 28 年 10 月 9 日に富山県氷見市で開催された、「アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト 2016 東海北陸地区大会」に、鳥羽商船高専から A チーム (ロボコン同好会チーム)、B チーム (M5 卒研チーム) の 2 チームが出場しました。

A チーム (ロボコン同好会チーム) は、アイデア賞と協賛企業から送られる特別賞 (本田技研株式会社賞) のダブル受賞となり、11 月 20 日に行われる全国大会への出場となりました。

鳥羽商船高専 B チーム (M5 卒研チーム) は、ベ

スト 8 まで進みました。

なお、来年度の高専ロボコンは第 30 回記念大会となり、その東海北陸地区大会は、本校が主管校となり、平成 29 年 10 月に伊勢市内で開催予定です。



A チームのメンバー

○高専プロコン 主管校で最優秀賞獲得

平成 28 年 10 月 8 日~9 日に鳥羽商船高専が主管校として開催いたしました、全国高専第 27 回プログラミングコンテストの自由部門において、「みつばちず」チームが最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。

また、トヨタコミュニケーションシステム企業賞を「HOME LOG」チームが受賞、東芝 IT ソリューション企業賞を「みつばちず」チームが受賞しました。

競技部門では「田男 (でんまん)」チームが準決勝進出を果たしました。



最優秀賞の「みつばちず」チーム

(制御情報工学科 中井 和文記)

同窓会便り

長かった暑い夏も過ぎ、短い秋ももうすぐ終わろうとしています。近年快適な春や秋の期間が短くなったと感じるのは私だけではないと思います。

○9月25日(日) 商船学科卒業式

暑さの残る秋の佳き日、商船学科の卒業式が挙行政

れました。今年も航海コース 19名、機関コース 17名、専攻科 2名全員の就職、進学先が決まり、期待に胸膨らませ、社会へ船出していきました。

今年は例年に増して内外航船社に 24名の就職が決まり、商船学科の面目躍如です。

田中同窓会長、岩田全船協会長、伊勢志摩支部諸兄 10名ほどが卒業式と卒業謝恩パーティに参加し、若い新入会員と共に楽しい時を過ごしました。



祝辞を述べる田中同窓会長

宴の最後は伊勢志摩支部三井支部長の万歳三唱で締めくくられました。

○10月8、9日 第27回全国高専プログラミング大会

伊勢市観光文化会館において、鳥羽商船高専が主管校で第27回全国高専プログラミング大会が開催されました。

本校は自由部門で「みつばちず」チームが最優秀賞、文部科学大臣賞を受賞しました。

○10月9日全国高専ロボコン2016東海北陸地区大会

富山県氷見市市において、全国高専ロボコン2016の東海北陸地区大会が開催され、鳥羽商船Aチームがアイデア賞、特別賞を受賞し4年ぶりに全国大会への出場を果たしました。

全国大会は11月20日東京で開催されます。母校の活躍は同窓会の誇りです。在校生の皆様のみますますの活躍を応援いたします。



全国大会出場の垂れ幕

○10月29日海学祭開催

今年の第51回海学祭は10月29日(土)、秋の好天に恵まれ盛大に開催されました。

オープニングで海洋少年団の子供たちによる手旗信号「カイガクサイオメデトウゴザイマス」が演じられました。



海洋少年団の手旗信号披露

今は授業で手旗信号も無くなりましたが、来場者は解説付きの手旗信号に興味を持って見入っていました。

同窓会伊勢志摩支部は恒例の長老庵と中村コーヒー店を出店し好評を博していました。売上げは今年も同窓会に寄付させていただきました。



海学祭 屋台



海学祭 在校生校歌総唱

昨年9月の常総水害をもたらした台風で被害を受けた母校の100周年記念館も補修、改修工事が完了いたしました。皆様のご来館をお待ちしています。

同窓会事務局

広島商船高等専門学校

1. 校友会

○平成 28 年度合祀式挙行

(10 月 30 日)

百周年記念広場にて、32 名の慰霊に哀悼の意が捧げられました。合祀式は商船祭の中で行われ、学生会長をはじめとして多くの学生も参加しました。



○広島商船高等専門学校 120 周年記念事業実施の予定

平成 30 年度本校の 120 周年記念事業を開催

することが決まりました。

事業内容 (予定)

- (1) 記念行事 (式典・合同慰霊大祭他)
- (2) 記念事業 (記念誌発刊、資料保全・図書充実他)

○阪神支部総会開催 (11 月 10 日 (木))

菅原雅彦支部長のお世話にて、阪神支部総会が開催されました。

辻啓介校長から、学校の近況報告・120 周年の記念事業の説明がありました。

○京浜支部総会開催 (10 月 28 日 (金))

中山隆志支部長のお世話で京浜支部総会が 30 名の出席者がありました。

辻啓介校長から、商船学科の進学説明会 (東京) を盛りあげて頂くよう依頼があり、併せて 120 周年の記念事業の説明がありました。

2. 学校行事他

○第 2 回オープンスクール開催 (10 月 30 日 (日))

今年度、二回目のオープンスクールを開催し、広島県内外から 300 名以上の生徒・保護者が参加し、学科説明、学校施設・学生寮見学、練習船広島丸体験航海などを体験しました。当日は商船祭 (学園祭) も併催され、参加者は学科展示やさまざまなイベントを楽しんでいました。



商船祭

○帆船フェスタひろしま 2016 参加

(10月22日(土))

広島港で開催された「帆船フェスタひろしま2016」に参加しました。独立行政法人海技教育機構の帆船「日本丸」の広島港入港に合わせ、本校の女子学生とともに広島商船高等専門学校PR活動を行いました。日本丸の特別見学会では、海の仕事に興味のある中学生がセイルドリル(岸壁で帆船の帆を張る作業)を間近で見学し、帆船の優美な姿に感銘を受けた様子でした。また、船内では機関部の説明に対し熱心に質問し、興味深そうに見学する姿がありました。



日本丸の特別見学会

○卒業証書・修了証書授与式挙

(9月24日(土))

秋晴れの中、商船学科卒業式、海事システム工学専攻修了式が行なわれました。



商船学科卒業式

卒業生・修了生を代表して村上昂也君が、「この学校生活での有意義な時間を無駄にせず、学んだことを大いに生かして、より一層社会で活躍できるよう、新たな目標や希望に向かって努

力していきます」と答辞し、来賓、保護者、在校生及び教職員に見送られ、商船学科40名、専攻科海事システム工学専攻6名が本校を巣立ちました。

○平成28年度大学COC事業 シンポジウム 2016開催(9月3日(土))

本校の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」の一環として、視聴覚教室でシンポジウムを行い、約100名の参加がありました。本校一般教科朝倉教授・小河教授の2名が教育分野への取組みや今後の課題等について発表し、また地域おこし協力隊で公営塾「神峰学舎」の永幡氏・佐々木氏の両名から大崎上島町での教育支援活動について報告しました。参加者からは「大崎上島町での教育の現状への理解を深めることができた。」「大崎上島には地元の人でさえ忘れていた文化があることを知り非常に興味深かった」の感想がありました。



視聴覚教室でシンポジウム

○第1回オープンスクール開催

(8月6日(土)、7日(日))

オープンスクールに広島県内外から多数の生徒・保護者の参加がありました。2日連続開催し、学生による体験授業、技術支援センター・学生寮・練習船広島丸の一般公開などを実施しました。多数のご参加ありがとうございました。



練習船広島丸の一般公開

○公開講座～あつまれ船長・機関長！2016～実施

(7月30日(土))

中学生と保護者を対象に公開講座を実施しました。参加者は尾道港から本校の練習船



練習船バックに記念写真

「広島丸」の操船体験などを行い、大崎上島にある本校を目指しました。

本校では、操船シミュレータ・シーカヤック体験などを行い、実習船「ひかり」の操船体験をしながら尾道港に帰港しました。本校の専攻科生が中心となって講座を運営し、参加者とのふれあい、参加者とともに充実した時間を過ごしました。

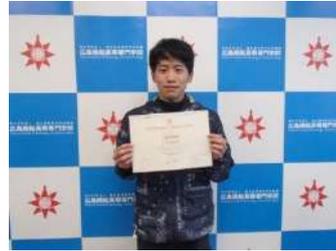
3. 学生の活躍他

○国際シンポジウム ISTS2016 参加

(10月4日(火)～12日(水))

インドネシアのジョグジャカルタで開催された国際シンポジウム ISTS2016 (International Symposium on Technology for

Sustainability)に電子制御工学科5年藤井琢也学生が参加しました。本シンポジウムは、英語による研究発表と、学生が中心となって英語で議論を行うワークショップで構成されています。ワークショップでは、設定された課題に対



理事長賞を受賞した藤井君

して議論し結論を導くことで「グローバル・リーダーシップの育成」を目的としています。参加した藤井学生も積極的に議論に参加し、理事長賞を受賞しました。

○大崎海星高校との合同プロジェクト発信

11月より大崎上島町商工会のプロジェクトで、島内で働く方の魅力を発信するパンフレットの「島の仕事図鑑」第4弾の作成を大崎海星高校の生徒と一緒に行いました。お互いの学校を訪問し、交流やインタビュー練習、写真撮影講習を実施するなかで、新しい友人関係も築けました。このプロジェクトを通して、大崎上島への定住者促進に貢献し、高校と高専の学校間連携の新しい形を模索します。



写真撮影講習

○アイデア対決高専ロボコン参加

(10月23日(日))

津山市久米総合文化運動公園体育館で行わ

れた高専ロボコン中国地区大会に参加しました。今年のテーマは「新大陸開拓」。個性豊かな手作りロボットが“探検家”となり“海”を渡り、“塔”を築く時間と技を競い合いました。本校からは2チームが出場し、Aチーム【#Aki 厳島(アキツクシマ)】は準優勝、Bチーム【(せとうちレモン(A)(セウチレモンカッコー)】は特別賞(株式会社安川電機)を受賞しました。



高専ロボコン中国地区大会

○公務員受検対策講座開催

(10月17日(月))

公務員受検対策講座を開講しました。商船学科、流通情報工学科1~4年生22名の学生が、目標を達成するために、熱心な態度で受講しました。4カ月に渡り、11回開催講予定です。近年の公務員志向に合わせて、学生の希望を実現する進路指導支援の1つとして実施しています。



公務員受検対策講座開催

○沖浦地区恵美須神社秋季大祭参加

(10月9日(日))

沖浦地区の伝統行事である「恵美須神社秋季」に参加し、櫓伝馬の水夫(かこ)として学生・

教職員23名が参加しました。お祭は式典に続き、ご神体をのせた御座船を櫓伝馬4隻でお旅所へ曳航し、お旅所での行事を行ったのち、神社に曳航して帰る行事です。地域の高齢化が進み水夫の人材が不足する中で、学生が多数参加して、伝統行事の継承に貢献できたことは大きな成果でした。



恵美須神社秋季大祭に参加

○卓球男子団体全国大会優勝報告

(9月30日(金))

8月に行われた全国高等専門学校体育大会(男子卓球団体戦)の優勝メンバーが、大崎上島町役場を訪問し、亀山副町長に全国優勝を報告しました。卓球男子団体は平成23年から25年まで3連覇を達成しています。ここ2年間は準優勝に甘んじていましたが、3年ぶりの全国制覇に、竹内宏熙主将は「夜間も練習した結果、成果を出せた」と語り、亀山副町長から、「連覇を目指してください」と激励を受けました。



優勝メンバー大崎上島町役場を訪問

○明石地区御串山神社秋季大祭参加

(9月17日(土))

明石地区の「御串山神社秋季大祭」に、神輿担ぎの手伝いで学生・教職員7名が参加しまし

た。お祭は式典、神輿の宮出しから始まり、神輿を担いで明石地区内を巡回したのち、宮入りして終了です。巫女の舞や獅子舞も披露され、古式ゆかしい伝統行事に触れました。



御串山神社秋季大祭に参加

ましたが、地区の有志が權伝馬を復活させようとの思いに協力し、学生寮は夏季休業で閉寮中のため、下宿生・留学生を中心とした学生及び教職員が乗船して、矢弓区權伝馬復活とお祭の盛り上げに協力しました。



東野地区の住吉祭

○全国高専体育大会結果

8月中旬に東海北陸地区で第51回全国高等専門学校体育大会が開催されました。本校からは7月に行われた中国地区大会を勝ち抜いた陸上・卓球・剣道・水泳の4競技が出場しました。

各競技においては、これまで培ってきた日頃の練習成果を存分に発揮し、団体の部では卓球男子優勝、個人の部では卓球女子シングルス準優勝、陸上競技女子やり投げ決勝3位の成績を納めました。



第51回全国高等専門学校体育大会出場選手達

○木江十七夜祭参加（7月30日（土））

地域との交流を深めるため、木江地区で行われた十七夜祭の權伝馬競走（一般参加の部）に参加しました。地域の高等学校、中学校、海運企業、女子有志及び本校の5チームで行われた競争では、健闘及ばず3位となりましたが、地域の皆さんとの交流を深めることができました。



木江十七夜祭参加

○東野地区住吉祭参加（8月13日（土））

東野地区の住吉祭は毎年8月13日に行われます。学生寮がある矢弓区は、人口減少などの理由で祭りへの参加を10年近く見合わせてい

4. 学校の様子

○せとうち海上環境&体験航海セミナー実施（11月5日（土））

三原市内の小学生を対象に「せとうち海上環境&体験航海セミナー」を三原市と共同で実施しました。当日は大変天気が良く、午前中は本校学生による救命講座や海洋エネルギー発電についての実験、午後からは本校練習船「広島丸」による体験航海を行い、航海中にはカンパジの作成やロープワーク、また操舵体験を行いました。参加者からは「楽しかった、海などの環境を大切にしたいと思った」等の感想があり、海を身近に感じてもらえた。



せとうち海上環境&体験航海セミナー参加者

○北海道中頓別町交流団来校(11月4日(金))

大崎上島町の姉妹都市である北海道中頓別町民の方が交流事業の一環で来町し、本校へ視察がありました。参加された方々は当日操船シミュレータ、技術教育センター、練習船広島丸等を見学し、興味深そうに装置に触れたり、体験したりしながら、教職員に様々な質問をされました。



北海道中頓別町民の方本校へ視察

○日本郵船(株)との連携事業(短期留学) (8月31日(水)~9月10日(月))

日本郵船株式会社「郵船みらいプロジェクト」の一環で開催された商船高専向け短期研修に商船学科の学生3名が参加しました。研修先は、フィリピンにある海事大学(NYK・TDG Maritime Academy)です。朝5時から夜10時まで同大学のメンバーと生活を共にし、船員に必要な専門的な実習などを英語で受講しました。休日は、コレヒドール島・タガタイへ大学のメンバーに同行し、観光をしました。夜間は、学生の英語力向上のための特別授業も実施され、学生達は船員を志す仲間として、よい人間関係を築くことができました。参加学生から「一生の思い出に残る良い経験ができた」との意見がありました。



フィリピンの海事大学学生との交流

○国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンス参加(7月23日(土))

一般社団法人日本船主協会主催の国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンス(神戸会場:(独)海技教育機構練習船銀河丸)に参加しました。このガイダンスは全国で5つある商船高等専門学校の紹介と海や船に関する仕事の魅力や将来性などを知っていただくために毎年開催されているものです。当日は多くの参加者があり、各校のブースでは参加者から卒業後の進路や学校生活などについて熱心な質問が寄せられ、非常に盛況のうちに終了しました。



合同ガイダンス



航海実習の撮影

○呉大和ミュージアムで工作教室実施
(7月23日(土))

呉大和ミュージアムとの連携事業として「3Dプリンタを使ったロボット工作教室」を開催しました。本校の電子制御工学科の穆准教授と学生の指導のもと、小中学生と家族の方に夏休みの休日を楽しんでもらいました。



工作教室

○本校の長期取材始まる
(7月12日(火))

地元のテレビ局の取材を受け、校舎地区を始め、本校練習船広島丸を使った航海実習、カッター部の練習風景などの撮影が行われました。この取材は長期に渡る第1回目で、今後も学校を上げて協力していきます。

○日本郵船(株)連携事業「体験航海・海技士講演会」(7月5日(火))

日本郵船株式会社と本校の主催で、海・船への関心への向上を目的として、広島市立幟町中学校2年生と教員の方を対象に練習船「広島丸」による体験航海と日本郵船株式会社の海技士による海上での講演会を実施しました。生徒は、日本の貿易を支える船舶や船員の仕事の内容についての説明を興味深そうに聞き入っていました。

本体験航海を通じて、生徒たちは船舶や海の仕事について、関心を持ってくれました。



練習船「広島丸」による体験航海

大島商船高等専門学校

学校便り

1. 式典

○平成 28 年度卒業証書授与式挙行・平成 28 年度専攻科入学式挙行

9 月 21 日、平成 28 年度 商船学科 卒業証書授与式を挙行し、本科 42 名（N21 名、E 21 名）が卒業しました。また 10 月 3 日に、平成 28 年度専攻科海洋交通システム学専攻の入学式を挙行しました。



卒業生集合写真（写真上）と卒業証書授与式（写真下）

2. 任命式

○国際交流学生任命式を開催しました

8 月 9 日、以下の国際交流学生任命式を開催しました。

- (1) カウアイ・コミュニティ・カレッジ(KCC)での英語研修参加者
- (2) 国立高雄海洋科技大学 (NKMU) での国際学生交流プログラム参加者
- (3) シンガポール・マリタイム・アカデミー (SMA) からの来訪学生受入時の交流学生

3. 学術活動

○日本航海学会第 135 回講演会(広島県呉市内)で商船学科学生が発表しました

10 月 28 日～29 日、商船学科 5 年 久我学生が表題「節水の呼びかけが乗船実習における水の使用意識に及ぼす影響」を発表。本研究は長崎大学水産学部“鶴洋丸”との共同によるものです。また、JMU(株)事業所も見学し、大学教員や他の学会会員とも交流する等、学会活動を体験しました。



日本航海学会での発表（写真上）と共同研究者ほか（写真下・左から 2 番目）

4. 実習活動

○商船学科 1 年生、“大島丸”航海実習を実施（行先：愛媛県松山市）

10 月 12 日・13 日、航海実習を行い、学生たちは一生懸命に取り組みました。

○商船学科 2 年生、“大島丸”航海実習を実施（行先：香川県丸亀市）

10 月 18 日～20 日、航海実習を行い、来島海峡・備讃瀬戸の航路やエンジンの発停について学びました。寄港地では、金刀比羅宮の参拝及び海の科学館の見学を行いました。

○商船学科 3 年生、“大島丸”航海実習を実施（行先：山口県下関市）

10 月 26 日～28 日、航海実習を行い、寄港地では、(株)名門大洋フェリーの大型フェリー及び陸上施設を見学しました。



“大島丸”航海実習の様子

(写真上から商船学科1年生、商船学科2年生、商船学科3年生)

5. 国際交流活動

○台湾・高雄海洋科技大学（以下NKMU）学生が訪問

7月14日～18日、NKMU学生4名及び教員1名が来校し、各種授業を通じて親交を深めました。

○シンガポール・マリタイム・アカデミー（以下SMA）学生が訪問

10月2日～8日、SMA学生8名及び教員1名が来校し、“大島丸”実習等を通じて親交を深めました。



学生の訪問時の様子

(写真上：高雄海洋科技大学、

写真下：シンガポール・マリタイム・アカデミー)

6. 学校PR活動、公開講座、地域連携活動他

○山口県内3高専合同学校説明会を開催

(会場：山口県岩国市内)

7月10日、本校主管で開催し、中学生と保護者など101名（内中学生49名）が来場しました。



山口県内3高専合同学校説明会

(会場：山口県岩国市内)

○平成 28 年度「専門家と連携した防災出前授業」を実施

本校の浦上教授と幸田准教授が「自分の命は自分で守る」をテーマに、地元小中学校にて防災出前授業「サバイバルレッスン」開催し、6月6日～7月11日に、6回（小中学校7校）で実施しました。



「サバイバルレッスン」の様子

○岩国っ子うみまつりで“大島丸”体験航海等を実施（会場：山口県岩国市）

7月16日～18日、岩国市及び岩国港海の日協賛会 主催「ぶちおもしろい！遊んで学ぶ岩国っ子うみまつり」において、“大島丸”の一般公開及び体験航海を実施し、地元小中学生が多数参加しました。



「岩国っ子うみまつり」の様子

○サイエンスアカデミーにて工作教室開催（会場：防府市青少年科学館ソラール）

7月24日、“大島丸”の山口一等機関士と商船学科3年生の学生5名が、来場者の小中学生を対象に「ポンポン船をつくろう！」の工作教室を開催しました。



工作教室「ポンポン船をつくろう！」の様子

○平成 28 年度 第 2 回オープンキャンパスを開催しました

8月11日、本校にて開催しました。東京都から鹿児島県まで、約450名の参加者がありました。





「第2回オープンキャンパス」の様子

○周防大島少年の船「洋上セミナー」を実施しました

8月24日～26日、本校と周防大島町教育委員会との共催で実施しました。町内の小学6年生が“大島丸”と国立江田島青少年交流の家を中心に2泊3日の共同生活を行いました。



周防大島少年の船「洋上セミナー」の様子

◎クラブ活動等

○第52回 中国地区 高等専門学校体育大会 全国大会出場進出者 (クラブ)

- 水泳：M5 砂田 学生 自由形 100m、
個人メドレー、
リレー400m、
メドレーリレー400m
- S4 石丸 学生 自由形 200m、
リレー400m、
メドレーリレー400m
- S5 水中 学生 自由形 400m、
メドレーリレー400m
- I4 康田 学生 平泳ぎ 200m、
メドレーリレー400m
- S4 内田 学生 バタフライ 200m、

- リレー400m
- S3 岩崎 学生 リレー400m
- 柔道： 男子 90kg 超級 S3 田中 学生
男子 60kg 級 S5 藤井 学生
女子 63kg 級 S3 松尾 学生
- 陸上： 砲丸投 M4 岡村 学生
男子 200m I3 青木 学生
女子走高跳 M3 齊田 学生
- ソフトテニス： 女子個人 I3 小島 学生
- サッカー： Aパート 1位

○第51回 全国 高等専門学校体育大会結果

<主な結果(上位成績者のみ)>

- 水泳：M5 砂田一虎 学生 自由形 100m 決勝 1位
個人メドレー 決勝 1位
- 柔道：S3 松尾 京 学生 63kg 級 準優勝
- ソフトテニス： I3 小島美紅 学生
女子個人戦 3位
- サッカー：優秀選 DF S5 札幌浩輝 学生



(写真上) テニス I3 小島学生 (右)、(写真下) 水泳部

◎教職員関係・その他

○平成 28 年度大島商船高等専門学校校長表彰を実施しました

7月13日、教育、研究・地域連携、学生指導及び業務改善等の分野で特に顕著な功績をあげた教職員に対して、個人3名と1グループが選出され、表彰状等を授与されました。

(教務主事補 前畑航平 記)

弓削商船高等専門学校

学校記事

○平成28年度商船学科卒業式及び専攻科修了式を挙行

平成28年9月25日(日)、平成28年度商船学科卒業式及び専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式が行われ、卒業生38名・修了生3名は新たな門出の日を迎えました。当日は、真っ白な制服につつまれた卒業生が、最後の儀式として「ごきげんようー!」と帽子を投げる姿はいつ見てもすばらしく、その成長ぶりを見せつけられるばかりでした。式終了後は、保護者、教職員、同窓会役員、来賓のみなさんを交えて、後援会主催の祝賀会が開催されました。



商船学科卒業式及び専攻科修了式

○全国高等専門学校第27回プログラミングコンテスト 本校外場4チーム全て入賞!

全国高等専門学校プログラミングコンテストは、全国の高専の学生達が集い、プログラミングのスキル、作品の完成度、アイデアなどを競うコンテストです。コンテストは課題に対してプログラミングで問題解決を行う競技部門、与えられた

平成28年度卒業予定者就職・進学先	
商船学科	平成28年9月25日現在
航海コース	機関コース
就職(進学)先	就職(進学)先
洞雲汽船株	コスモ海運株
西部タンカー株	福寿船舶株
NSユニテッドタンカー株	JXオーシャン株
広島共同汽船株	広島共同汽船株
川崎汽船株	大洋産業貿易株
株ユニテッド・ジャパン	内海曳船株
宇和島運輸株	第一中央内航株
商船三井フェリー株	日本郵船株
福神汽船株	大和海運株
瑞穂産業株	大洋日本汽船株
日鉄住金物流君津株	広島共同汽船株
大洋産業貿易株	八重川海運株
日本海事興業株	株海輸社
大和海運株	鹿児島船舶株
大塚汽船株 2名	オーシャンランス株 フェリー事業部
三級水先人養成(三級水先人候補)	
株霧島海運商會	
英雄海運株	
鶴見サンマリタンカー株	
日本海運株	
(有)三原汽船	
専攻科	
海上輸送システム工学専攻	
就職(進学)先	
鶴見サンマリタンカー株	
鶴見サンマリ株	
太平洋汽船株	

卒業予定者就職・進学先リスト

テーマに対して作品を作る課題部門、自由なテーマで作品を作る自由部門の3部門で競われます。今年度は10月8日(土)、9日(日)に、三重県伊勢市にて開催されました。全国から応募のあった57校171テーマから、厳しい予選を通過し、本校から参加した4チーム全てが入賞を果たし、高専プロコン強豪校の実力を示しました。

- ★ 競技部門 優勝・文部科学大臣賞・情報処理学会若手奨励賞 チーム名「一致百慮」
- ★ 課題部門 優秀賞 チーム名「Knee's Needs -英姿颯走-」
- ★ 自由部門 特別賞 チーム名「ミ・マモーレ-迷惑電話防止システム」
- ★ 自由部門 さくらインターネット企業賞 チーム名「i-pass Watch-スマート認証でスリムな生活を-」



出場チームの皆さん

○2016Ene-1 GP 鈴鹿KV-BIKEチャレンジ全国大会において、2連覇達成！（大学、高専、専門学校部門）、さらに2年連続、総合2位を獲得！

8月7日（日）、鈴鹿サーキット国際レーシングコース東コース（2.2243km）において、2016 Ene-1 GP 鈴鹿 KV-BIKE チャレンジ全国大会が開催されました。本校電子機械工学科チームは、大学、高専、専門学校部門に参加し、2連覇を達成しました。さらに、一般、高校、中学部門を含めた総合成績で2年連続となる2位を獲得しました。

（Ene-1 GP の写真を1枚掲載）



2連覇達成の電子機械工学科チーム

（広報主事 副校長 益崎真治）

同窓会だより

同窓生のみなさん平成28年も終わり平成29年がスタートいたしました。新年あけましておめでとうございます。今後も同窓会の運営にご協力のほどよろしくお

願いたします。

新入会員（商船学科卒業式）の報告

去る9月25日商船学科38名の卒業式、海上輸送システム工学専攻3名の修了式が学校にて行われました。残念ながら全員が同窓会へ入会していただいておりますが、30数名の新入会員を迎えることになりました。ご入会いただいた卒業生の皆様の将来を同窓会ともども支えていきたいと考えておりますので、先輩方のご協力もよろしく願いたします。ご入会いただいた新入会員のみなさま、あらためてご卒業おめでとうございます。

本年も航海科コース、機関科コースからそれぞれ1名ずつ同窓会より卒業表彰を行いました。本年の卒業生は航海科110期生、機関科81期生となります。



同窓会役員のみなさんと表彰された2名の卒業生



在校生との記念撮影
（テニス部のみなさん）

以上
本年も弓削商船高専同窓会、同窓生のみなさんよろしく願いたします。

（E46期 副会長 益崎真治記）

海技教育機構

○乗船実習

高専4年生は、10月1日から日本丸(航海科・機関科)及び銀河丸(機関科)の2船に分かれ、高専5年生(弓削のみ)は、10月1日から海王丸(航海科)及び青雲丸(機関科)の2船に分かれ、それぞれ5ヶ月間の長期実習を行っています。

このうち、日本丸は12月10日に横浜を出航、ハワイ諸島のナウヰリウヰリ港(カウアイ島)及びホノルル港(オアフ島)へ寄港する遠洋航海を行っており、2月8日に東京へ帰港する予定です。

また、高専2年生は、3月1日から1ヶ月間、日本丸及び銀河丸の2船に分かれ、短期実習を行う予定です。

平成25年から開始していた高専短期実習導入に向けた移行が、ようやく本年度末終了し完全移行となります。



【写真①】横浜出港(登橋礼)

平成29年1月から3月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

○日本丸

高等専門学校(航海科、機関科)4年

1/6~9 ナウヰリウヰリ、1/10~14 ホノルル、2/8 東京着、2/10 下船

高等専門学校2年

3/1 乗船、3/3 東京発、3/10~15 横須賀、3/21~25 別府、3/28 東京着、3/31 下船

○海王丸

大学(航海科)4年

海技大学校専攻(航海科)1年

高等専門学校(弓削航海科)5年

1/5 乗船、1/7 東京発、1/16~20 細島、1/24~28 鹿児島、2/2~6 別府、2/9~14 神戸、2/27~3/4 大阪、3/9 東京着、3/10 下船

○大成丸

海上技術学校3年

1/5 乗船、1/7 東京発、1/16~20 鹿児島、1/26~30 神戸、2/4~8 広島、2/16~20 佐世保、2/27~3/3 別府、3/8 神戸着、3/10 下船

○銀河丸

高等専門学校(機関科)4年

海上技術短期大学校(波方)1年

高等専門学校2年

1/5 乗船(海短)、1/7 東京発、1/14~19 高松、1/26~30 別府、2/8 神戸着、2/10 下船(高専4年)、2/13 神戸発、2/17~22 名古屋、2/27 神戸着、3/1 乗船(高専2年)、3/4 神戸発、3/9 横浜着、3/10 下船(海短)、3/15 横浜発、3/21~25 大阪、3/29 東京着、3/31 下船(高専2年)

○青雲丸

大学(機関科)4年

海技大学校専攻(機関科)1年

高等専門学校(弓削機関科)5年

海上技術短期大学校(波方)1年

海上技術学校 3年

1/5 乗船(大学、海大、海短、海校)、1/7 東京発、
1/14~18 佐世保、1/28~2/2 高松、2/9 神戸着、2/10
下船(高専 4年)・神戸発、2/18~22 広島、2/27~3/3
鹿児島、3/10 下船(大学、海大、高専5年、海校)下船
地未定、入渠、3/29 東京

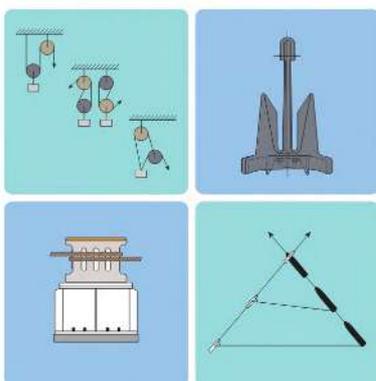
○ 海技教育機構編著「海技士4N 標準テキスト」発行

四級海技士(航海)取得を目指す人のための参考書として海技教育機構編著「海技士4N 標準テキスト」が海文堂出版から発行されました。本書は、JMETS(海技教育機構)練習船での実践的カリキュラムを基に、JMETSの教官がそれぞれの専門分野を執筆したもので、航海士になるための必要な基本事項を押さえつつ、できるだけ最新の技術や基準等の情報を網羅しました。

また、これから四級海技士国家試験を受験する方に最適になるよう、航海、運用、法規、英語を1冊にまとめ、さらに過去10年間の筆記試験問題を調査・分析して典型的な問題を抽出、その模範解答例を掲載するなど、これまでにない画期的な参考書となっています。

海技士4N標準テキスト

独立行政法人 海技教育機構 編著 JMETS



海文堂

その他にも、航海訓練所シリーズとして以下の書籍

が出版されています。

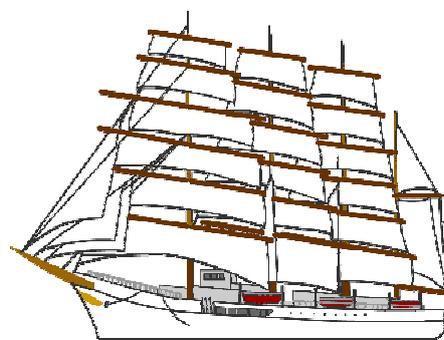
- ・ 読んでわかる三級航海 航海編(成山堂書店)
- ・ 読んでわかる三級航海 運用編(成山堂書店)
- ・ 帆船日本丸・海王丸を知る(成山堂書店)
- ・ 読んでわかる機関基礎(成山堂書店)

これらの書籍は、JMETS 練習船での実習訓練で使われますが、海運業界のみならず水産や官公庁の船員分野で活躍される皆様のほか、海事知識の習得が必要な方々の学習図書としても最適なものとなっておりますので、色々な分野で活用されることを期待しています。

海技教育機構は、ホームページ及び Facebook 等の SNS を活用し、業務運営に関する情報、練習船における実習状況ならびに各寄港地でのイベント情報を発信しています。是非ご覧ください。

HP : <http://www.jmets.ac.jp>

企画調整部 企画課 岩崎裕行



本部・支部だより

〈 本 部 〉

- | | | | |
|------------|---|------------|--|
| 2016/08/02 | 鹿児島県立鹿児島水産高等学校の海洋科機関コース林田修一教諭が午前中來会され、同高校の卒業生の就職状況、求人状況等現況及びその他情報交換を行った。又、当協会の活動主旨等の説明をしたところ、今後積極的な協力をして頂くこととなった。佐々木氏來会 | 2016/09/08 | キャプラン(株)佐々木氏來会 |
| 2016/08/09 | 一般社団・財団法人向けセミナーに参加『役員が知っておくべき不正事例』(及川) | 2016/09/09 | 平成 28 年度船員災害防止関東大会(横浜)(岩田・田島) |
| 2016/08/10 | 東京運輸支局にて平成 28 年度第 1 回東京地方船員労働安全衛生委員会(8/19)の事前打ち合わせ(岩田・田島) | 2016/09/12 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船オシャントランス(株)フェリーどうご(岩田・田島) |
| 2016/08/10 | ゆり社会保険労務士事務所吉岡氏來会 | 2016/09/13 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船 シーライン東京(株)シンフォニークラシカ・シンファオニーモデルナ(岩田、田島) |
| 2016/08/16 | 片桐氏就職相談で來会 | 2016/09/16 | ふるさとの海を守る会川口氏來会 |
| 2016/08/16 | キャプラン佐々木氏來会 | 2016/09/16 | 波濤を超えて(日本丸記念パーク)(岩田) |
| 2016/08/17 | 全国戦没者追悼式(観音崎)(岩田・及川) | 2016/09/20 | 日本船舶機関士協会ゴルフコンペ(岩田) |
| 2016/08/19 | 平成 28 年度第 1 回東京地方船員労働安全衛生協議会(岩田・田島) | 2016/09/21 | 大島商船高等専門学校卒業式(赤嶺副会長) |
| 2016/09/01 | 海事人材育成サブプロジェクト(及川) | 2016/09/24 | 広島商船高等専門学校卒業式(望月理事) |
| 2016/09/01 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船 日本海運(株)ひまわり 6(岩田・田島) | 2016/09/25 | 鳥羽商船高等専門学校卒業式(岩田会長) |
| 2016/09/02 | 平成 28 年度第一回企画財政委員会 | 2016/09/25 | 弓削商船高等専門学校卒業式(柏木理事) |
| 2016/09/05 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船 東京海洋大学青鷹丸(岩田・田島) | 2016/09/27 | 鳥羽商船高等専門学校卒業式(及川専務) |
| 2016/09/06 | 国交省船員教育室室長村松室長來会打ち合わせ | 2016/09/28 | 東京港・生存対策講習会(田島) |
| 2016/09/06 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船 芝浦通船(株)海王丸東港サービス(株)やわた(田島) | 2016/09/30 | NEC ネットエスアイ株式会社 阿部 詔一氏來会 |
| 2016/09/07 | 平成 28 年度船員労働安全衛生月間訪船 伊豆七島海運(株)第五十八日祥丸(岩田・田島) | 2016/09/30 | 収益事業関連打ち合わせ 株式会社三菱総合研究所古木次郎主席研究員(岩田、及川、田島、小木曾、飯島) |
| | | 2016/09/30 | ディーエムソリューション前田氏來会 |
| | | 2016/10/03 | 執行役員打ち合わせ(岩田、赤嶺、及川、田島) |
| | | 2016/10/03 | 朝日大学西牧誠名誉教授ご夫妻來会 |
| | | 2016/10/04 | 公益財団法人海技教育財団理事会(岩田) |
| | | 2016/10/04 | 大和証券本店法人課長 清水昭雄氏來会打ち合わせ |

2016/10/07 富山北斗会関東支部総会懇親会(岩田、及川)
 2016/10/07 慶友会昼食会(岩田)
 2016/10/11 横浜海洋会懇親会(岩田)
 2016/10/11 海技教育財団評議委員会(及川)
 2016/10/12 海事局村松室長打ち合わせ訪問(岩田、及川)
 2016/10/13 海技教育財団奨学生選考委員会(田島)
 2016/10/14 キャプラン佐々木氏来会打ち合わせ
 2016/10/15 海技大学同窓会(於三宮)(岩田)
 2016/10/20 内航総連訪問 加藤理事長と面談(岩田、及川)
 2016/10/25 平成28年度第2回理事会
 2016/10/26 Jones Lang LaSalle KK 榊氏来会打ち合わせ
 2016/10/26 三菱UFJ証券来会打ち合わせ
 2016/10/31 キャプラン佐々木氏及び山田氏来会
 2016/10/31 元全日本海員組合長中西氏を偲ぶ会(岩田)
 2016/11/03 故元全船協会長川村尠氏告別式(岩田、及川、山田、田島)
 2016/11/08 第21回HTW調査検討委員会(及川)
 2016/11/10 富山高等専門学校商船学科1&3年成及び保護者教育セミナー(キャプラン佐々木氏、及川)
 2016/11/11 イレブンマリナーズコンペ(岩田)
 2016/11/14 近海タンカー常務来会打ち合わせ
 2016/11/15 キャプラン佐々木氏来会
 2016/11/15 大和証券支店長来店 就任挨拶
 2016/11/15 執行役員打ち合わせ(岩田、赤嶺、及川、田島)

2016/11/18 平成28年度商船学科振興協議会開催
 2016/11/25 弓削商船高専忘年会(マリナーズコート)(岩田)
 2016/11/28 平成28年度第3回「海事技術者調査サブジェクト」会議(富山高専射水キャンパス)(及川)
 2016/11/28 鳥羽商船高専OB会(名古屋)(岩田)
 2016/11/30 株式会社 アカデミア社長小出修三氏来会
 2016/11/30 独立行政法人海技教育機構 熊上氏、中野氏来会
 2016/11/30 船員災害防止協会関東支部 原田

〈神戸支部〉

2016/08/05 ラデックス インターネット接続工事
 2016/09/02 海王丸機関長中村氏、尾崎分室長就任挨拶 来室
 2016/09/05 富士ゼロックス FAX, COPY修理来室
 2016/09/26 定例会 出席者4名
 2016/10/28 定例会 出席者6名
 2016/11/11 といちクラブゴルフコン
 2016/11/28 定例会 出席者3名
 2016/11/29 ビル総会
 2016/12/21 定例会予定



謹賀新年

一般社団法人 全日本船舶職員協会
 会長 岩田 仁

副会長 赤嶺 正治	専務理事 及川 武司	
理事・事務局長 田島 孝一	理事 山田 貢	理事 柏木 実
理事 望月 正信	理事 吉本 公則	理事 矢野 芳秀
理事 小木曾 順務	理事 濱崎 達也	理事 松見 準

監事 渡部 英利 監事 本望 隆司

会費納入者御芳名帳(敬称略)

No.1

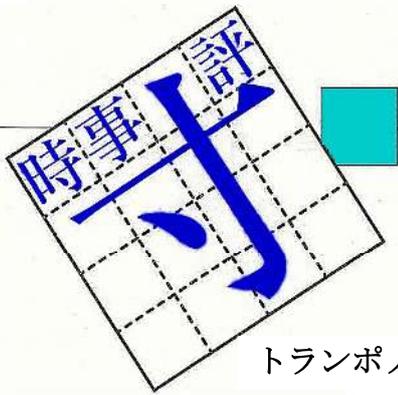
2016年7月16日～2016年11月30日

7月	吉村 蔣造	佐々木 重幸	9月	田島 孝一
商船三井フェリー	河本 裕三	田中 博昭	6,400	吉原 洸喜
4,800	辻 武志	新家谷 聡	升田 万寸穂	田原 大輔
富山 幸弥	青山 保	山田 昌利	8,000	舘 満治
木下 博	森脇 千秋	松林 信義	師富 潤	吉澤 勇
薄井 雄基	中森 晴雄	丹後 和美	(2年分)19,200	西村 臣正
廣瀬 潤一	村嶋 秀	有光 和生	大木 未来	加治原 二仁
岡田 頼人	森保 秀明	松本 弘明	9,600	増島 忠弘
前田 龍弥	藤中 満	風折 正美	石津 勝義	久保田 博公
相澤 功	木村 照孝	池上 英二	中瀬 和典	安岡 征治
筏井 啓	末岡 民行	高橋 健治	鶴飼 幹夫	須浪 英人
清水 洋平	松尾 和徳	8月	佐野 博	中川 佳彦
時松 勇貴	武藤 兼廣	JXオーシャン	熊井 秀樹	柿山 朗
内海水先人会	山口 清	9,600	加藤 正	岩本 正直
9,600	中尾 登一	秋元 光博	竹中 義朗	五井 和貴
港 明広	二宮 眞澄	新田 浩貴	松見 準	下野 紘史
矢野 清	宇高 保	山田 健太	渡辺 隆彦	力武 敏美
坂本 洋之助	河合 謙太郎	山田 隆二	小木曾 順務	東野 友和
木下 健	立野 征生	上澤 恒介	芝 修次	畑内 康孝
末吉 光郎	上池 静夫	本田 修	桑田 大輝	川島 弘行
堀本 俊幸	佐々木 重幸	曾我部 博弥	鈴木 晴敏	高尾 幸徳
富永 信行	田中 博昭	鬼塚 夕季愛	内野 光博	森田 啓二
西山 英二	新家谷 聡	二川 英樹	小田部 誠一	納 英治
小西 宏幸	山田 昌利	浦川 修	村田 一明	城戸 裕晶
橋本 三郎	松林 信義	山中 亨子	冢田 靖士	阿部 碩志
高濱 洋嘉	丹後 和美	西本 雅之	山田 司	神谷 洋
高岡 昭男	有光 和生	出貝 孝洋	山下 栄治	堀田 規安
島田 愛水	松本 弘明	須田 浩明	清水 貢	藤井 一洋
井上 健二	風折 正美	早崎 弘泰	濱口 澄夫	津田 道夫
吾妻 文雄	池上 英二	勝木 輝明	中居 豊平	厚東 貞治
小西 壽	高橋 健治	古川 洋	橋本 禎成	南 清和
本山 幹夫	山口 清	中玉利 治	岡田 稔	大野 晃照
谷口 誠	中尾 登一	周佐 智也	西村 陽造	里本 幸大
中村 充美	二宮 眞澄	蒔田 和成	新田 泰弘	西谷 勇二
倉本 修	宇高 保	友利 賢吾	森成 哲也	井上 徹
後藤 清治	河合 謙太郎	高田 勉	内田 成孝	渡部 英利
鹿渡 正次	立野 征生	9,600	藤中 恒夫	橋之口 勉
小山 健一	上池 静夫	岡田 輝幸	國武 千歳	小松 和夫

会費納入者御芳名帳(敬称略)

No.2

2016年7月16日～2016年11月30日				
西谷 直記	宮崎 智司	武村 泰宏	9600	沖本 和也
白井 栄三郎	近藤 武	安部 亮志	岡本 準二	森 敬行
蔦 正昭	吉本 茂正	峯 浩	鈴木 剛也	宮坂 昌弘
松村 武朗	瀧上 勇二	東軒 弘幸	桑原 真樹	菅原 央貴
加藤 郁夫	江種 大宗	藤本 真之	角田 圭	吉村 重登
杉山 秀光	井波 稔	北城 雄太	岡本 準二	川下 正剛
川越 義人	内田 安昭	坂部 正憲	鈴木 剛也	高岡 俊輔
徳森 生喜	足立 雅俊	知識 康二	桑原 真樹	秋月 恭介
山岡 啓二	竹内 航平	田中 健一	角田 圭	石原 弘通
栄 雄生	加藤 航	高垣 毅	玉井商船	田丸 修
阿久根 浩人	山口 久雄	本望 隆司	9600	田中 善治
冷水 雄一	中島 章	井手 暁郎	清崎 哲也	濱尾 弘宣
伴 良造	西村 敏和	杉森 四郎	石川 祐二	蒔田 和成
松田 伸一	森内 芳卓	水野 博之	千綿 信二	商船学科卒業生
岡田 卓三	矢野 芳秀	小谷 卓哉	ジェイマリン	入会者
紺頼 英雄	中川 和俊	三輪 史郎	9600	4,800
飯野 実	富山 貴史	加山 文治	嵐 公司	大島
河野 理博	坂本 聡	山口 正二郎	杉山 博	山中 清隆
野村 浩久	鬼頭 俊介	花澤 利男	梶原 仁	濱本 奈
大澤 恵次	末田 亮介	岩藤 薫	佐藤 信義	田中 黎治
秋山 晃満	大野 光久	清木 肇	原田 昭二	中村 直都
三浦 武	岩本 利雄	川崎 敏夫	嵐 公司	小嶋 祐資
武田 雄三	亀山 道義	中平 金次郎	杉山 博	亀井 謙多
大西 正則	宇佐美 康一	北島 逸平	梶原 仁	福喜 慧悟
雲林院 記大	大江 俊洋	横山 良一	佐藤 信義	横田 道代
山田 貢	西山 貴治	原 正純	原田 昭二	鷲頭 真紗城
終身会員	赤松 健康	原田 博之	大阪湾水先区	島居 文哉
60,000	岩切 等	二ツ石 聖示	9,600	田中 友美
七呂 光雄	千道 英雄	松田 孝	山本 隆史	賛助会員
終身会員	角田 和也	大林 浩	清水水先区	50,000
9,600	今村 義幸	杉本 真吾	9,600	北星海運株式会社
片山 清	曾我 隆弘	小林 司	中村 政一	山友汽船株式会社
10月	町 裕次	終身会員	個人会員9,600	広島商船校友会
個人会員9,600	福畑 裕士	50,000	濱尾 弘宣	北斗会事務局
田上 郁夫	嶋山 勇太	曾根 邦弘	柏木 昭彦	株式会社トランステム
大宮 博孝	上野 昇	11月	森木 孝男	鳥羽商船同窓会
前田 安紀	寺田 千穂	MOオーシャンエジスパート	安西 純一	弓削商船高専同窓会
佐々木 駿二	内藤 真世		武藤 登	大島商船高専同窓会



トランプノミクスの影響

11月8日に投開票された米大統領選で公職経験が全くない共和党候補のドナルド・トランプ氏が、民主党候補で米国初の女性大統領を目指したヒラリー・クリントン氏を破り、当選した。選挙期間中に問題発言をして米国メディアからも批判されるもラストベルトの白人中間層票が

「アメリカに雇用を取り戻す」と訴えたトランプ氏を支えた。来年1月20日の執任を前にドル高傾向が強まり円安・株高とTPPからの離脱を挙げた衝撃は日本経済にも影響を与えている。しかし日本の経済識者等は次期大統領の掲げる公約に付いて矛盾している点を分析、特にメキシコに対する関税の引き上げ（WTOルールで保障された最恵国待遇関税率との比較）・WTOからの脱退・世界展開中の米企業の打撃。また減税やインフラ（社会資本）投資などの財政政策の推進と米国の財政赤字拡大と更なるドル高懸念。「米国の雇用を守る」と「輸出にブレーキがかかるドル高容認」の矛盾にまた発言を翻すのか？

TO記

表紙写真 校内練習船「鳥羽丸」 提供先 鳥羽商船高等専門学校

5商船系高専の校内練習船を表紙写真に掲載する2番目として、鳥羽商船高等専門学校練習船です。校内練習船「鳥羽丸」は、鳥羽商船高等専門学校の練習船として三井造船株式会社玉野造船所で建造され、平成6年（1994年）8月19日に竣工しました。

本船の要目は次の通りです。

航行区域：近海、総トン数：244トン、全長：40.00m、幅：8.00m、喫水：2.80m、

主機関：ヤンマーMF29-UTD1 低速ディーゼル機関（1300psX370rpm）、速力：13.8ノット、

航続距離：2,300海里、最大搭載人員：56人（乗組員9名・教員3名・学生44名）

編集後記

年間3回発行している会報「全船協」も会員及び海事関係機関皆様のご協力により、此処に133号を迎えることが出来ました。事務局並びに広報ホームページ委員会として此れまでの協力を厚くお礼申し上げます。内容につきましては（一社）全日本船舶職員協会の活動目的である「船員教育の振興を図り、無料船員職業紹介及び海事技術者の人格技能の向上を支援する」を基に、商船学科の学生及び保護者並びに内外航を問わず新人船員の採用に取り組んでいる船社にも広く配布できるように吟味したいと考えております。

迎える酉年が皆様にとって幸多かれと祈ります。

TO記

全船協 No.133 新春号

平成29年1月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-34 千代田三信ビル 8階
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail : honbu@zensenkyo.com

URL : <http://www.zensenkyo.com>

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 山崎 正敏

本 部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp> TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博史

副会長 漆 畑 忠雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所

〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 内田 研一

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 内田 裕二

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

鹿児島水先区水先人会

会長 松下 忠夫

副会長 橋之口 勉

水先人 今村 義幸

〒891-0122 鹿児島市南栄5丁目10-8
電話 (099) 260-7707
FAX (099) 260-7717

清水水先区水先人会

会長 中村 政一

副会長 中川 三夫

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリナターミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の貨物
船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

代表取締役 可児 絃之(鳥羽S39E)

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークウヅ横浜・巻番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp

海運業界出身の転職コンサルタントが対応!

海技者の転職

ならキャプランへ

海運 キャプラン 検索

CAPLAN

転職支援・人材採用のお問合せ (担当: 佐々木)
電話 03-3497-9335 marine@mail.caplan.jp
キャプラン株式会社 東京都港区南青山3-1-31 NBF 南青山ビル2階

飾り毛布 花毛布 新38選

あたたかい日本のおもてなし



飾り毛布・花毛布は、1枚の毛布を花や自然の風景、動物などの形に折って船室に飾る、百年を超える歴史を持つ日本船独自のおもてなし。好評既刊「飾り毛布 花毛布」を全面改訂、大幅に増頁し、38種の作品と折り方をフルカラーで紹介。一部は動画も提供。この文化を継承している船会社や組織、折り手のプロフィールも掲載。

上杉恵美 (明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授)
吉田孝志 (JR東日本・運転士、元青函連絡船乗組員)
森本泰行 (ホテルパラディスイン相模原・取締役支配人) 著

A5判 160頁 定価(本体1,800円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp



海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば特別価格にてご婚礼・ご宴会・ご宿泊がご利用いただけます。

ようこそ美食のホテル
マリナーズコート東京へ

ご婚礼・ご宴会・各種会合・ご宿泊
レインボーブリッジをはじめとする東京湾の素敵な景観とともに
ごゆっくりお過ごしいただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京 〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 ご予約 TEL: 03-5560-2525

宿泊設備(海員会館)のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



※写真はイメージです。

ナビオス横浜



1階 レストラン
RESTAURANT
Ocean

3階 バーラウンジ
Seamen's Club



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL: (045) 633-6000

- エスカル室蘭 TEL: (0143) 22-7009
- 川崎海員会館 TEL: (044) 233-5896
- エスカル横浜 TEL: (045) 681-2141
- エスカル神戸 TEL: (078) 341-0112

一般財団法人 日本船員厚生協会 (045) 319-4506
ホームページ <http://www.jswa.or.jp>

■ センボスの宿・健康診断 ■



一般財団法人
船員保険会

会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <http://www.sempos.or.jp>

海事業界メディアのバイオニア

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 03-3436-3222 まで

電子版サービス「マリナビ」は
www.marinavi.com へ